

私立大学 学生生活白書 2011

発行 平成23年9月
編集者 学生委員会学生生活実態調査分科会 分科会長 松尾哲矢
監修者 社団法人日本私立大学連盟
学生委員会 担当理事 永井和之
委員長 國廣敏文

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25 私学会館別館
TEL 03-3262-3603 FAX 03-3262-3604 (教学支援担当)

企画・制作協力・印刷／株式会社ウェイヴインターナショナル
TEL 本社 06-6362-1222／東京支社 03-6226-6151
URL www.wave-int.co.jp

私立大学 2011 学生生活白書

社団法人日本私立大学連盟 学生委員会

進学目的・理由／充実度／期待

経済状況

ライフ（大学生生活）

正課教育

正課外活動

不安・悩み

進路・就職

身についたこと

Student Life Report

STUDENT LIFE REPORT 2011

私立大学 学生生活白書 2011

まえがき

日本私立大学連盟が平成22年秋に実施した「第13回学生生活実態調査」の分析結果を、ここにお届けいたします。

「第13回学生生活実態調査」は、合計56の質問項目からなり、加盟各大学のご協力を得て、加盟122大学、7,117人の学生諸君から貴重な回答（回収率69.3%）をいただきました。加盟各大学へはすでに集計報告書をお届けしておりますが、本書は、得られたデータを分析し、加盟大学の学生諸君の学生生活の実情、経済状況、正課教育、正課外活動、不安・悩み、進路・就職等について、今回調査を含め3回分（12年間）の時系列比較を中心に分析結果をとりまとめたものです。

今回調査結果の主な特徴としては、現実志向の学生の増加、経済状況の悪化と奨学金受給者の増加、就職や将来に関する不安や悩みの増加等が挙げられますが、これらの結果は、長引く経済不安や就職難などの社会情勢を反映したものと言えましょう。その一方で、正課や正課外活動に対する興味・関心も高く、積極的な学びが学生生活の満足度を高め、学生の成長を促している実態が見られました。

今回の分析を通して、学費の減免や奨学金制度の整備、改善等、厳しい経済状況の中でも大学での学習を継続できる支援や就職支援の充実、正課外活動に対するよりきめ細かな支援等が現在的な課題として浮かび上がってきました。

今後、ますます大学を取り巻く環境は変化し、それにともなって学生の多様化が進んでいくものと考えられます。そのような中、大学を取り巻く時代の変化を敏感に読み取り、学生のニーズとその変化を的確に把握しながら、きめ細かな学習支援、学生生活支援を講じることが大学教育の質を担保するとともに、各大学の新たな魅力づくりにつながっていくものと思われます。

本書から私立大学で学ぶ学生諸君の生活実態や意識を把握し、学生支援の課題を詳細に検討いただき、各大学の支援において生かしていただければ幸いです。

また、「就職や将来の進路」や「経済問題」に不安・悩みを抱え、「内向き志向」が高いと言われる学生が、学生生活を通じて自らの視野を広げ、可能性を信じることのできるような修学環境の確保に向け、大学関係者はもちろん、政府及び企業関係者をはじめとする社会をあげて、その仕組みづくりのための具体的な行動を起こしていくことが求められていると言えましょう。

最後に調査にご協力いただいた加盟大学及び学生諸君に改めて御礼申し上げます。また、調査の実施や分析に当たられた学生生活実態調査分科会の委員諸氏に心から感謝を申し上げます。

平成23年9月

学生委員会

担当理事 永井 和之

委員長 國廣 敏文

学生生活実態調査分科会

分科会長 松尾 哲矢

目次

基本事項	02
I. 進学目的・理由／充実度／期待	04
II. 経済状況	08
III. ライフ(大学生活)	12
IV. 正課教育	16
V. 正課外活動	20
VI. 不安・悩み	24
VII. 進路・就職	28
VIII. 身についたこと	32

委員名簿	36
------	----

社団法人日本私立大学連盟加盟大学一覧	37
--------------------	----

Contents

基本事項

「第13回学生生活実態調査」の概要

この「学生生活白書」は、本連盟の「第13回学生生活実態調査」結果をもとに作成したものである。同調査の概要を以下に記す。

●調査の目的

本連盟の「学生生活実態調査」は、本連盟加盟大学に在籍する学部学生の生活状況を調査し、学生の生活実態を把握するとともに、時代の変化に応じた比較分析を行い、加盟大学並びに本連盟の諸活動を検討する際の基礎的資料とすることを目的として、4年に1度実施されている。

●基本設計・質問項目

質問項目の基本的な設計にあたっては、調査の継続性を重視し、客観的で数値化できる内容設定によって経年変化の比較分析を重視しつつも、時代の趨勢を踏まえた見直しを行い、Ⅰ基本事項、Ⅱ大学等の選択理由、入学後の満足度、大学への期待・要望、Ⅲ経済、Ⅳライフ(大学生活)、Ⅴ正課教育、Ⅵ正課外活動、Ⅶ不安・悩み、Ⅷ進路の8分野の質問群として質問項目を設定した。

●調査対象

本調査の対象学部は、平成21年度に設置されている学部(平成22年度新設学部は除く)とし、現在、同設置学部 に在籍している学生(留学生を含む)を調査対象とした。

加盟大学への調査票配付依頼枚数は、同設置学部の学部学生数(平成21年5月1日現在)の約1%とした(1%の学生数が10人以下の学部は、一定サンプル数を確保するため10人とした)。

●調査方法

各加盟大学には、集計結果の客観性を高めるために、調査対象者(学部学生)抽出にはできる限り厳密な無作為抽出を依頼した。各加盟大学では学部学生への調査票配付・回収にあたって、①手渡し後後日持参、②郵送後後日持参または郵送、③指定日時に参集・回答、のような方法がとられた。

●調査実施期間

平成22(2010)年9月上旬～10月下旬(9月1日付調査依頼)

●回答回収状況

調査依頼大学数 122大学

回答提出大学数 122大学

調査サンプル数 10,268人

有効回答者数 7,117人(回答率 69.3%)

※本書では、有効回答者数をN、無効回答者数をN.A.と表記している。

●集計結果

集計にあたっては、単純集計及びクロス集計を行い、「第13回学生生活実態調査」集計報告書〔平成23(2011)年2月〕をとりまとめた。

回答者の基本データ

()内は前回、前々回調査値/2006年、2002年実施 ※…調査なし

1 昼間部(昼間主)、夜間部(夜間主)どちらに在籍していますか。

昼間部(昼間主):**97.8%**(97.2%、95.0%)

夜間部(夜間主):**1.9%**(2.5%、4.9%)

2 性別はどちらですか。

男性:**51.8%**(53.4%、53.8%)

女性:**47.6%**(46.0%、45.9%)

3 年齢は何歳ですか。2010年4月1日現在でお答えください。

※06年までは(4月2日現在でお答えください) ※06年から(18歳未満)を追加した

18歳未満:**0.1%**(0.1%、※)

18歳:**14.6%**(13.1%、15.5%)

19歳:**23.1%**(20.6%、22.7%)

20歳:**25.4%**(23.8%、24.7%)

21歳:**22.8%**(24.4%、21.3%)

22歳:**9.1%**(11.6%、9.9%)

23歳:**2.0%**(3.1%、2.7%)

24歳:**0.8%**(0.8%、1.0%)

25歳:**0.6%**(0.6%、0.4%)

26歳～29歳:**0.7%**(0.8%、0.8%)

30歳代:**0.3%**(0.4%、0.5%)

40歳代:**0.1%**(0.1%、0.1%)

50歳以上:**0.1%**(0.2%、0.3%)

4 入学してから何年目ですか。

1年目:**24.8%**(22.7%、25.6%)

2年目:**26.6%**(24.4%、25.5%)

3年目:**26.9%**(26.4%、27.0%)

4年目:**19.5%**(23.8%、19.7%)

5年目:**1.0%**(1.4%、1.1%)

6年目:**0.2%**(0.3%、0.5%)

それ以上:**0.1%**(0.1%、0.1%)

5 あなたの出身高校等は次のどれですか。

私立:**43.7%**(42.9%、42.0%)

国立:**1.8%**(1.5%、1.2%)

公立:**51.2%**(52.8%、54.6%)

海外:**1.4%**(1.3%、0.8%)

高等学校卒業程度認定試験(大学入学資格検定を含む):**0.7%**(0.5%、0.5%)

※02年は大学入学資格検定

その他:**0.8%**(0.6%、0.6%)

6 あなたの現在の住まいはどちらですか。

自宅:**61.4%**(58.3%、56.0%)

自宅外:**37.5%**(40.4%、43.4%)

7 在学中の大学へはどのような選抜方法で入学しましたか。

一般入試:**40.0%**(45.8%、54.1%)

一般入試・センター試験併用:**5.9%**(4.2%、2.3%)

センター試験のみ:**6.6%**(5.6%、3.6%)

附属・系列校推薦:**7.2%**(8.3%、8.2%)(06年までは「附属推薦」)

指定校推薦:**17.8%**(17.2%、13.2%)

公募推薦:**8.5%**(8.3%、9.6%)

スポーツ・課外活動等推薦:**1.9%**(1.8%、2.7%)

帰国子女入試:**0.3%**(0.4%、0.2%)

社会人入試:**0.3%**(0.5%、1.0%)

編入学・転入学:**0.8%**(1.1%、1.2%)

AO・自己推薦入試:**8.3%**(4.9%、2.2%)(06年までは「AO入試」)

留学生:**1.3%**(1.1%、0.5%)

その他:**0.9%**(0.6%、0.7%)

専攻分野別学部系統分類

専攻分野	学部名				
人文科学系	異文化コミュニケーション学部	国際人文学部	人文学部	仏教学部	文芸学部
	外国語学部	国際文化学部	心理学部	文学部	文理学部(文科系)
	現代心理学部	コミュニケーション学部	人間学部	文化学部	
	現代文化学部	神学部	人間科学部	文化構想学部	
	国際英語学部	神道文化学部	人間関係学部	文化情報学部	
	国際教養学部	人文科学部	表象文化学部	文化表現学部	
法律・政治・社会系	アジア太平洋学部	現代福祉学部	社会科学部	政策学部	福祉総合学部
	環境情報学部	現代法学部	社会学部	総合政策学部	法学部
	観光学部	国際社会学部	社会情報学部	総合人間科学部	メディア学部
	企業情報学部	コミュニティ福祉学部	社会総合学部	総合文化政策学部	
	現代社会学部	産業社会学部	社会福祉学部	人間社会学部	
	現代人間学部	社会イノベーション学部	情報コミュニケーション学部	人間福祉学部	
商・経済・経営系	経営学部	経済情報学部	サービス経営学部	総合経営学部	流通科学部
	経営情報学部	現代経営学部	サービス産業学部	ネットワーク情報学部	流通情報学部
	経済科学部	現代ビジネス学部	商学部	マネジメント学部	
	経済学部	国際経営学部	情報学部	マネジメント創造学部	
理・工系	開発工学部	コンピュータ理工学部	情報デザイン工学部	先進理工学部	理工学部
	化学生命工学部	産業工学部	情報理工学部	創造理工学部	
	環境都市工学部	システム工学部	数理情報学部	デザイン工学部	
	基幹理工学部	システム理工学部	生産工学部	フロンティアサイエンス学部	
	芸術工学部	情報科学部	生命科学部	文理学部(理科系)	
	工学部	情報通信学部	生命システム工学部	理学部	
医・歯系	医学部	歯学部			

※第12回調査では、調査対象の学生が所属する全学部を「人文・社会系」「法律・政治系」「経済・経営・商系」「理・工系」「農・水産系」「薬系」「医・歯系」「家政系」「芸術系」「体育系」の10系統に分類して集計していたが、第13回調査では、上記学部を5系統に分類して集計した。よって、専攻分野別集計においては、上記以外の学部 に所属する学生の回答結果は反映されていない。

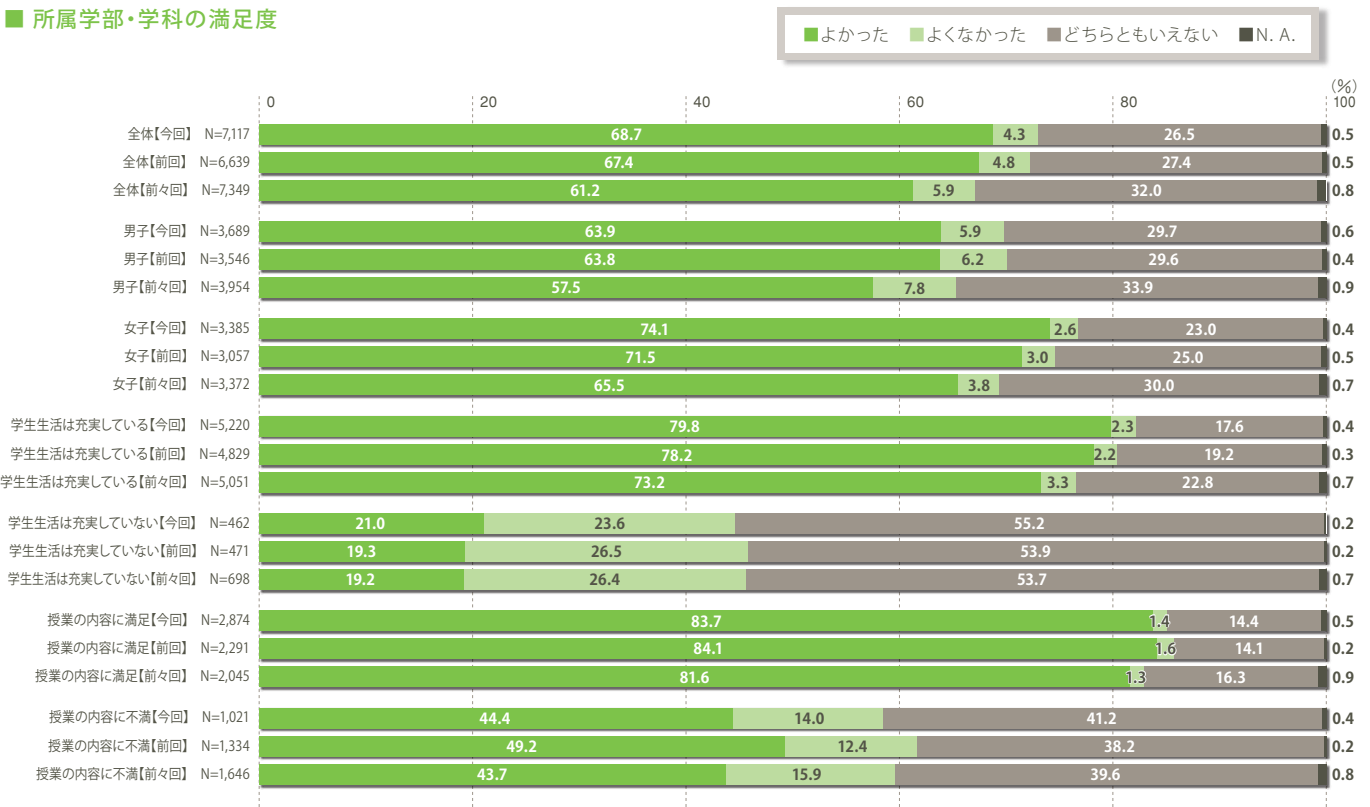
Students' Profile

● 所属学部・学科の満足度

所属学部・学科の満足度については、全体の約7割が「よかった」と回答しており、前々回調査から漸増傾向にある。性別で比較すると女子の満足度が高く、学生

生活の充実度、授業内容の満足度から見ると、それぞれ「充実している」、「満足」と回答している学生ほど所属学部・学科への満足度は高い。

■ 所属学部・学科の満足度

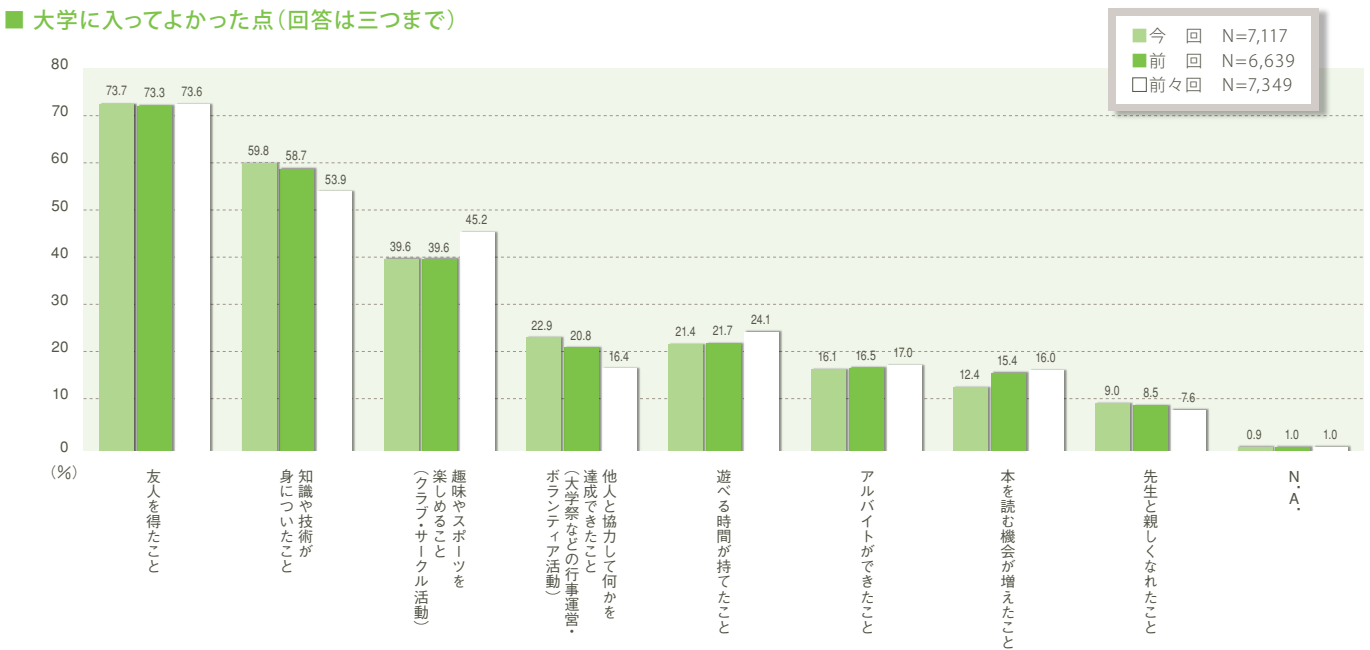


● 入学後、よいと思った点

相変わらずトップの「友人を得たこと」が高い数値で推移している。「他人と協力して何かを達成できたこと」が前々回から増加傾向にあり、通常の学生生活の中だけでなく、仲間と協力して学校行事等を推進し、達成するというプロセスの中で友情を育むというケースも増えていると考えられる。

「知識や技術力が身についたこと」については、男子（57.8%）よりも女子（62.1%）の数値が高い結果となった。学部系統別では医・歯系（86.6%）と理・工系（66.6%）が特に高く、次いで人文科学系（60.8%）も全体値以上の数値となっている。

■ 大学に入ってよかった点（回答は三つまで）

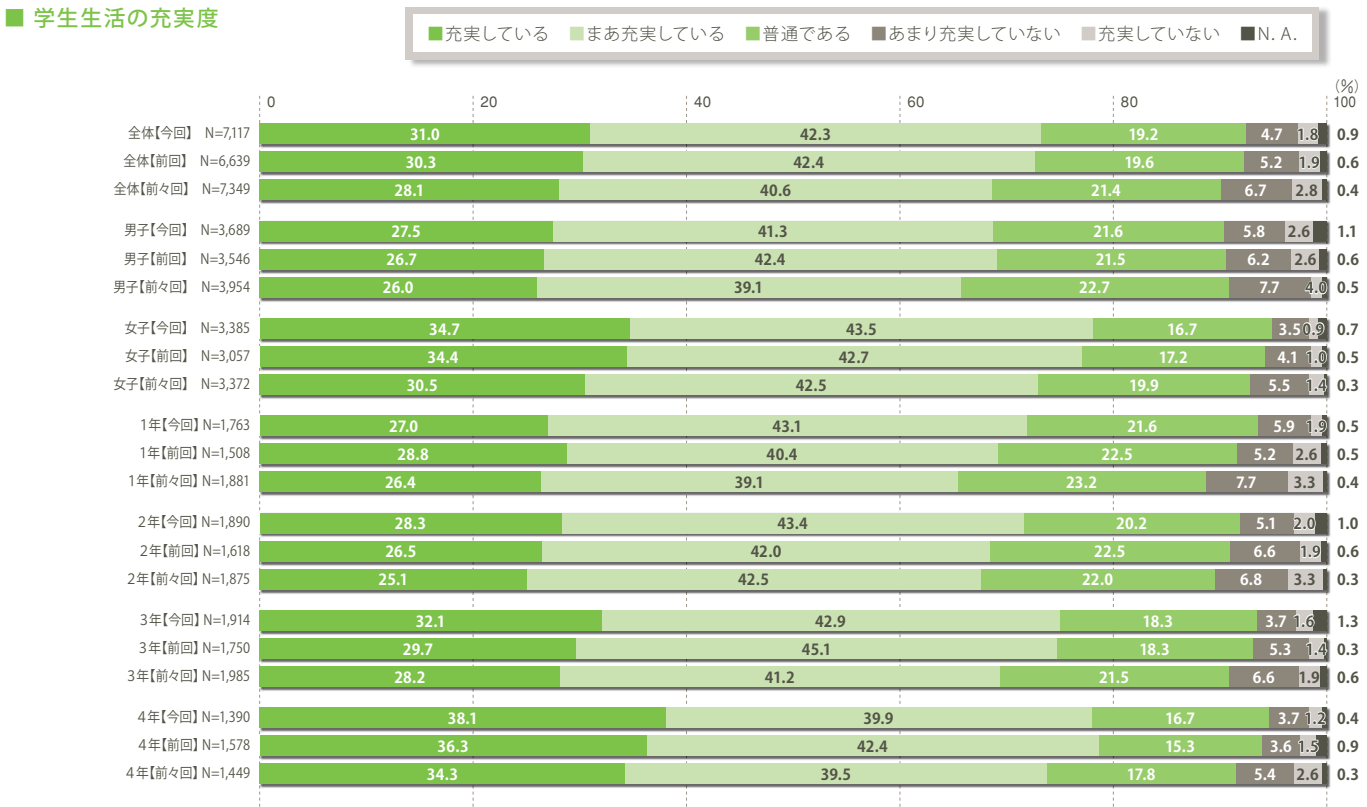


● 学生生活の充実度

学生生活が「充実している（「充実」+「まあ充実」）」と回答している学生の割合は、約73%にのぼり、高い数値となっている。この傾向は、前々回調査から漸増傾向にあり、高い水準で推移している。

「課外活動に参加している」、「大学入学後にボランティア活動に参加した」と回答している学生の充実度は80%を越えており、能動的に学生生活を送っている学生ほど充実度が高い傾向が見られる。

■ 学生生活の充実度

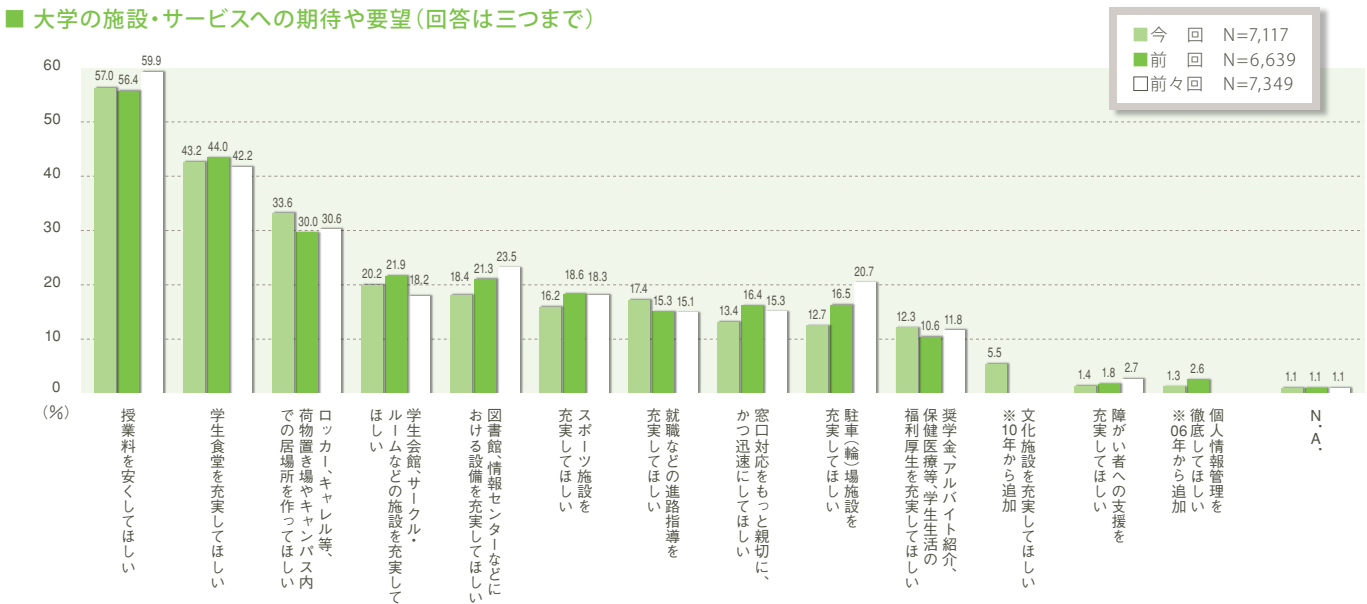


● 大学の施設・サービスへの期待や要望

「授業料を安くしてほしい」と回答した学生の割合が約6割と最も高く、前回とほぼ同様であった。前回調査と比較して「就職、進路指導の充実」が増加傾向にあり、学生の就職

活動への意識の高まりが見て取れる。他には、「ロッカー・キャレル等、荷物置き場やキャンパス内での居場所を作してほしい」が前回より3.6ポイント増加している。

■ 大学の施設・サービスへの期待や要望（回答は三つまで）



comment

学生生活の充実、所属学部・学科の満足度など、「私立大学」に対する全体的な満足度は、高い水準にあり、かつ増加傾向が続いている。これは、大学の継続的な取り組みの成果とも言えるが、学生自身の大学への期待とも深くかわるものと思われる。たとえば、「大学進学目的」では、「学歴の必要性」が高く、「自宅からの通学」や「自分の実力に合う」大学を選ぶ傾向が強くなっているなど、現実志向の学生が多く、大学に多くを求めない傾向が関連しているものと考えられる。その一方で、能動的に学生生活を送っている学生ほど生活充実度や所属満足度が高い傾向が見られ、学生の生活・活動支援の意義と重要性が浮き彫りになった。

Ⅱ．経済状況

Cost of Living

● 1か月の収入

■ 家族からの援助は減少。奨学金の受給金額が増加

総収入額(前々回88,500円→前回89,200円→今回82,700円)
「家族からの援助」(前回47,200円→今回40,600円)6,600円減
「奨学金」(前回66,500円→今回70,600円)4,100円増
「その他の収入」(前回32,300円→今回35,100円)2,800円増
「アルバイト」(前回53,500円→今回50,000円)3,500円減

● 1か月の支出

■ 生活費の数値が減少する中、学習・資格関連の支出は維持

総支出額(前々回74,000円→前回71,500円→今回68,300円)
携帯電話・インターネット等の通信費は1か月7,200円と微増
「家賃など」(前回47,600円→今回46,700円)900円減
「食費」(前回16,900円→今回14,800円)2,100円減
「資格取得講座」(前回18,100円→今回18,200円)100円微増

● 生活費・学費

■ 経済状況の悪化が顕著

経済的に余裕のある学生は激減(前々回25.5%→前回26.5%→今回20.2%)
学費を高いと感じる学生は微増(前々回80.8%→前回73.6%→今回75.1%)

● 奨学金

■ 奨学金受給者が激増

希望トップ3は、
1.「返還の必要のない奨学金の充実」
(前々回55.2%→前回49.3%→今回52.2%)
2.「手続きの簡素化」
(前々回36.8%→前回37.8%→今回39.8%)
3.「急激な家計収入減少への対応」
(前々回20.0%→前回17.7%→今回19.8%)

● アルバイト

■ 学費や生活費等、生活に直結した動機によるアルバイトが増加

アルバイトをしている学生は微減
(前々回67.2%→前回71.5%→今回69.3%)
1か月の就労平均時間は51時間(前は56時間30分)と大幅に減少
主な動機は「ほしい物、遊び、旅行、趣味などへの支出」
(前々回77.8%→前回79.3%→今回72.4%)
「生活費、学費などへの支出」
(前々回42.0%→前回38.0%→今回40.4%)
「社会勉強」(前々回34.2%→前回37.5%→今回31.3%)

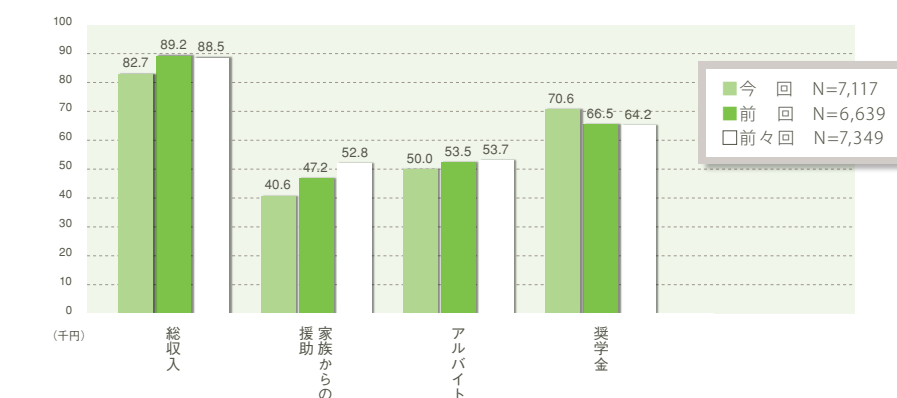
● 1か月の収入

1か月の総収入

1か月の総収入は82,700円で、前回に比べて6,500円減少した。

「家族からの援助」も前回より減少している。一方、「奨学金」による収入は、前々回の調査から漸増傾向にあり、総収入に占める割合が相対的に高くなっている。

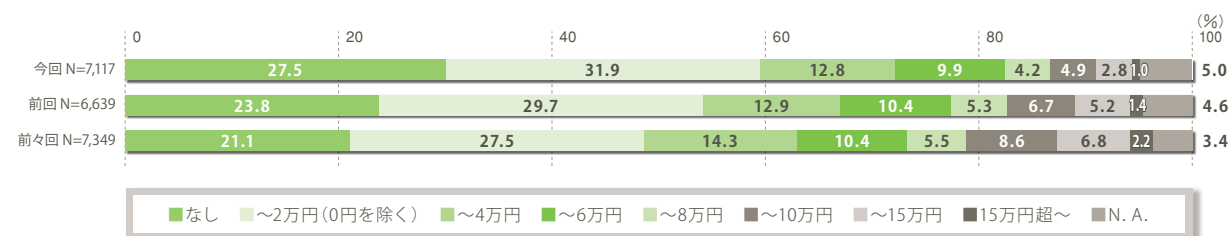
■ 授業期間中の1か月の収入概算平均(「なし」、N. A. を除く)



家族からの援助

家族からの援助は40,600円で、前回に比べ6,600円減少した。「なし」が3.7ポイント、「1円～20,000円」が2.2ポイント増加する一方、「100,001円～150,000」が2.4ポイント減少するなど、前回よりさらに低い金額帯へとシフトした。

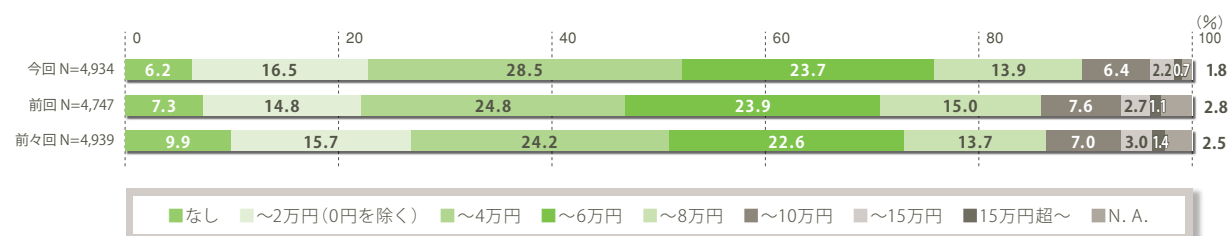
■ 授業期間中における1か月の家族からの援助



アルバイト収入

アルバイト収入は50,000円で、前回に比べ3,500円減少した。1か月の就労平均時間は、前回より5時間30分減の51時間ちょうどであった。アルバイトをする学生自体が減少し、それに伴い収入や就労平均時間が減少しているという結果となった。

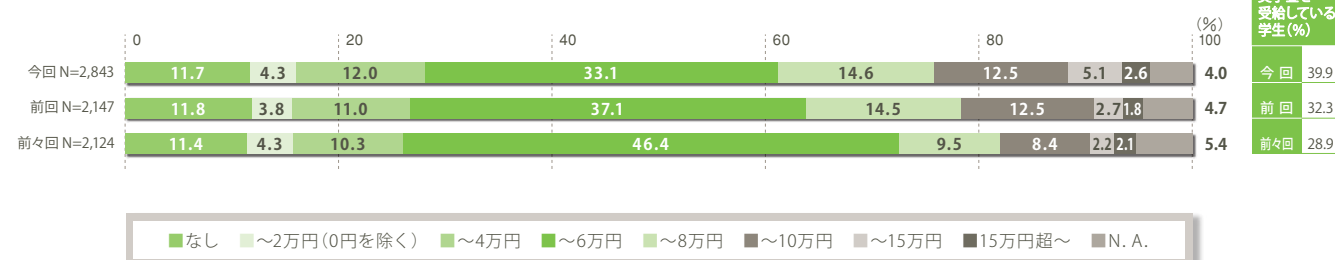
■ 授業期間中における1か月のアルバイト・定職収入



奨学金

奨学金を受給している学生は39.9%で、前回より7.6ポイント増加した。受給金額も70,600円と、前回の66,500円から4,100円増加した。毎月の受給金額については、40,001円～60,000円が最も多く、33.1%となっているが前回に比べて4.0ポイント減少した。一方で、60,001円～80,000円、80,001円～100,000円の層が依然として高い数値であると共に、100,001円～150,000円が2.4ポイントの増加、150,000円超も0.8ポイントの増加となり、さらに高い金額帯へとシフトした。

■ 授業期間中における1か月の奨学金(給付・貸与を問わない)



奨学金を受給している学生(%)
今回 39.9
前回 32.3
前々回 28.9

● 1か月の支出

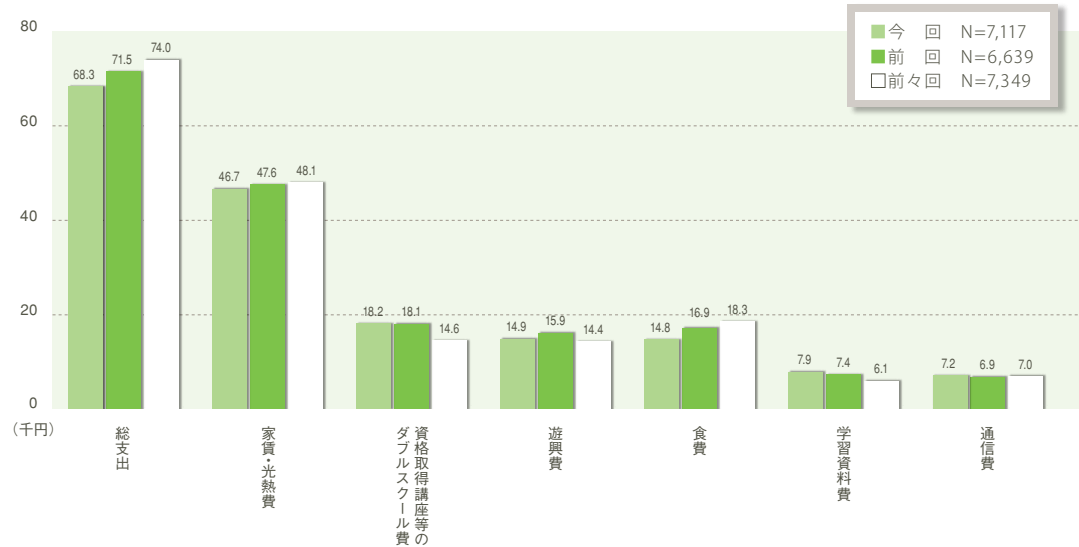
1か月の総支出は前々回から減少傾向にあり、今回は68,300円で前回より3,200円減少した。総収入から総支出を引いた差額は14,400円で、前回より3,300円減少した。

項目別に見ると、大きく増加した項目はないが、「家賃・光熱費」(前回47,600円→今回46,700円)「遊興費」(前回15,900円→今回14,900円)と、生活費全般を

切り詰めて総支出を抑える傾向が見て取れる。

一方で、「資格取得講座等のダブルスクール費」、「学習資料費」は前回と比較して減少せず、ほぼ同様の支出であった。総支出が減少傾向にあることから、生活費を切り詰めて捻出した分を、学習関連の費用にあてているという傾向が見て取れる。

■ 授業期間中の1か月の支出概算平均(「なし」、N. A. を除く)

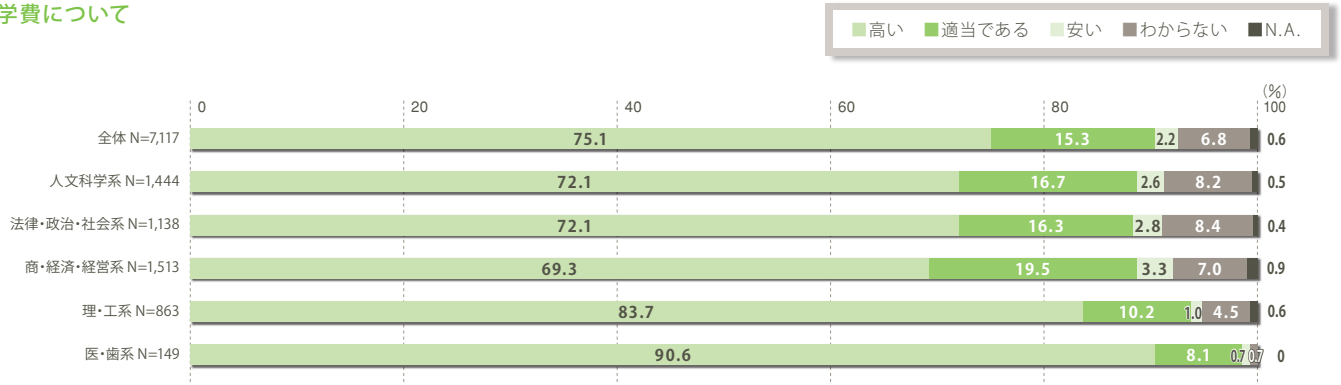


● 学費

学費が「高い」と回答した学生は前回より1.5ポイント増加し、75.1%となった。特に理・工系(83.7%)、医・歯系(90.6%)の数値が高かった。また、学費が「家計にとって負担になっている(「負担になっている+やや負担

になっている)」と回答した学生は82.4%で、前回よりも1.7ポイント増加した。この項目についても理・工系(85.6%)、医・歯系(87.2%)の数値が高くなっていた。

■ 学費について



● 奨学金

奨学金制度に対する希望のトップは、前回同様「返還の必要のない奨学金の充実」(52.2%)であった。前回より2.9ポイント増加しており、半数以上の学生が給付型の奨学金の充実を希望していることが分かる。

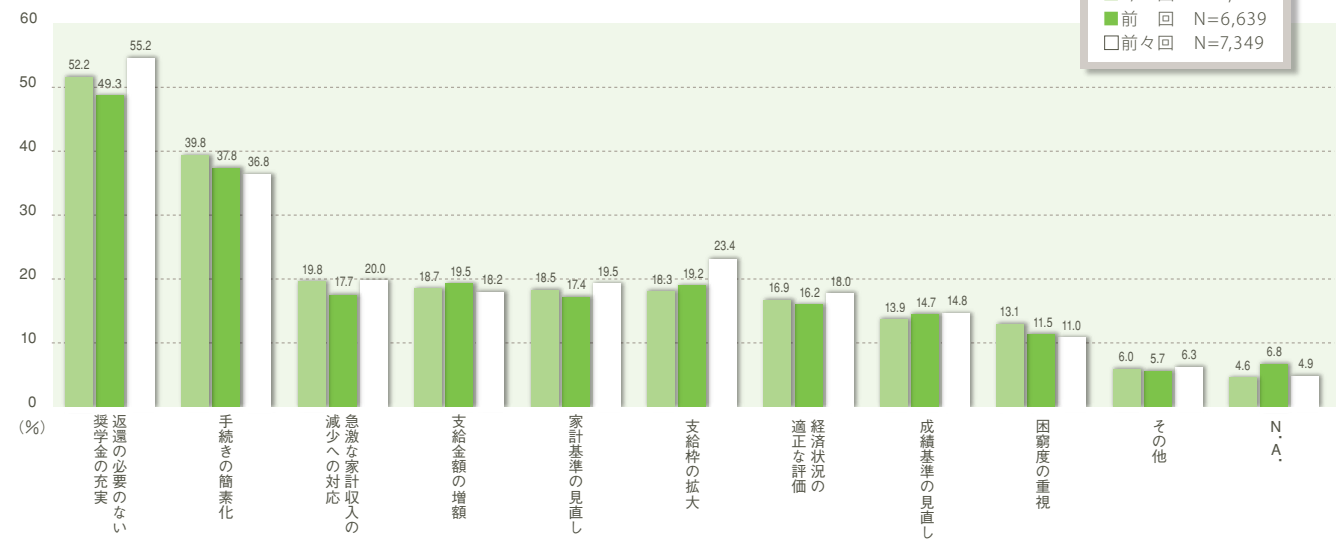
2位の「手続きの簡素化」は前々回より漸増傾向にあり、前回より2.0ポイント

増加している。

3位の「急激な家計収入の減少への対応」は2.1ポイント増加し再び20%に迫っており、少なくない需要が見て取れる。

また、「困窮度の重視」が漸増している。

■ 奨学金制度への希望(回答は三つまで)



● アルバイト

● アルバイトをしている学生

全体で約7割の学生がアルバイトを行っている(「常時している」+「時々している」+「定職を持っている」)という結果であった。経年的に比較すると前回調査でアルバイトをしている学生は、71.5%と前々回調査と比較して4.3ポイント増加していたが、今回調査では69.3%で、前回より2.2ポイント減少した。

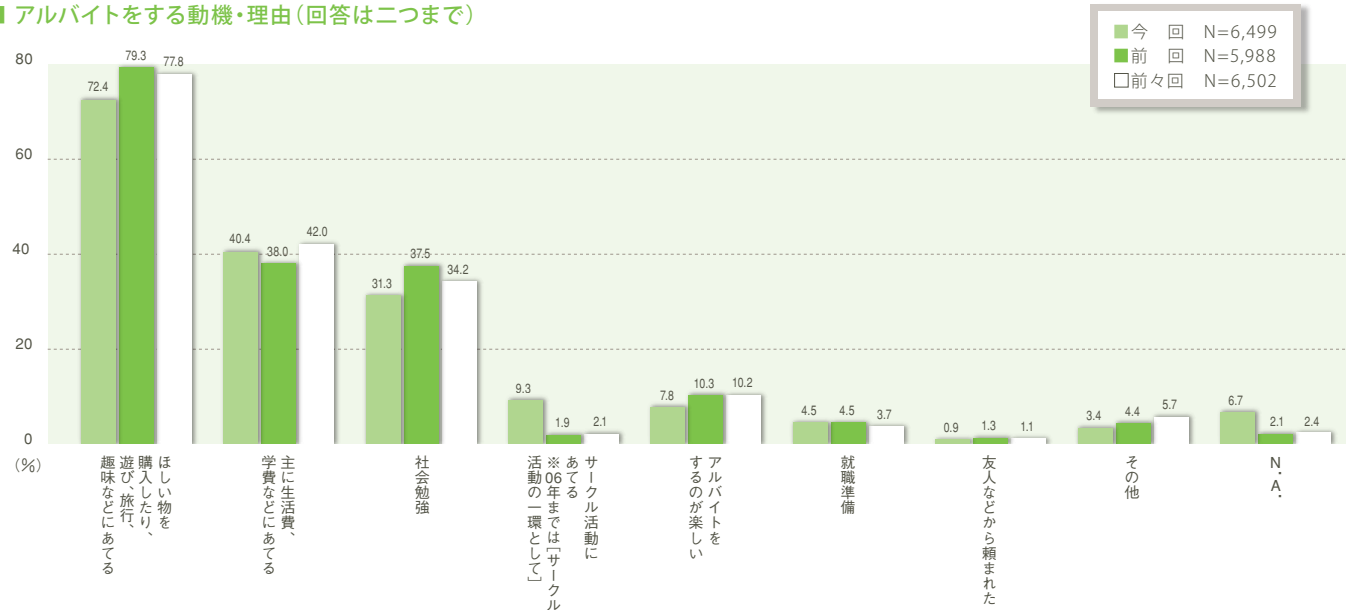
● アルバイトをする動機

1位は「ほしい物、遊び、旅行、趣味などへの支出」、2位は「生活費、学費などへの

支出」、3位は「社会勉強」となっており、前々回、前回と同様の順位であった。

前回と比較して「ほしい物、遊び、旅行、趣味などへの支出」が6.9ポイントの減少、「社会勉強」が6.2ポイントの減少、「アルバイトをするのが楽しい」も2.5ポイント減少した。一方で、「サークル活動にあてる」が7.4ポイント、「主に生活費、学費などにあてる」が2.4ポイント増加し、自分の楽しみや経験のためではなく、サークル活動費や生活費、学費など、より生活に直結した収入確保という動機でのアルバイトが増えている傾向が見て取れる。

■ アルバイトをする動機・理由(回答は二つまで)



comment

今回の調査で、総収入の減少に伴い、総支出も減少したことが分かった。総支出の減少については、生活費の切り詰めによるものが顕著である。収入面では、家族からの援助が減少する一方で、奨学金の受給金額も前回調査より増加しており、主に家族からの援助の減少分を奨学金でまかなっている状況が見て取れる。これは、全体的な経済の悪化が、学生の経済状況を直撃しているということをあらわしていると言えよう。

そんな中でも、「資格取得講座等のダブルスクール費」、「学習資料費」は数値を維持し、厳しい状況下だからこそ、将来への投資については相対的に見れば増加している。

学費が高いという意見が増加しており、家計における負担感の増大が見られる。学費の減免や奨学金制度の整備、改善等、厳しい経済状況の中でも大学での学習を継続できる支援施策の充実と新たな展開が求められる。

Ⅲ．ライフ（大学生活）

Ordinary Life

● 平均的な1日の生活時間

■ キャンパス滞在時間等前回調査とほぼ同様

・キャンパス滞在時間は6時間36分
 学年の進行とともに減少する傾向が続いている。
 図書館、コンピュータ室の利用時間、
 正課外講座の利用時間はほぼ横ばい。
 学外講座の受講率は減少傾向だが、受講時間は増加。
 ・通学時間

自宅生：1時間31分 自宅外生：41分(前回と変わらず)

・睡眠時間・就寝時間

睡眠時間は6時間17分(前回調査より6分減少)。

学年とともに増加する傾向が続いている。

就寝時間は午前0時頃～午前2時頃の合計が81.2%
 (前回と変わらず)

● 興味・関心事

■ 「大学の勉強」「就職活動」の増加が顕著

トップ3は、

- 1.「大学の勉強」(前々回3位18.1%→前回2位21.5%→今回22.9%)
- 2.「クラブ・サークル活動」(前々回2位22.0%→前回1位22.1%→今回21.9%)
- 3.「資格の取得」(前々回1位22.2%→前回3位20.7%→今回20.4%)
- 4位の「就職活動」は、前々回から11.4%→13.2%→15.8%と増加傾向

● 大学生活で大切なこと

■ 「進学・卒業」「成績」「就職」に関する項目が増加

トップ3は、

- 1.「経験を豊富にし、見聞を広めること」(前々回35.8%→前回32.5%→今回33.3%)
 - 2.「よい友人・先輩を得ること」(前々回40.0%→前回33.4%→今回29.9%)
 - 3.「専門的知識・技術を習得すること」(前々回29.1%→前回25.9%→今回25.8%)
- 2位の「よい友人・先輩を得ること」が前々回から下げ止まらず。
 「よい就職先を見つけること」が大きく増加(前々回9.4%→前回12.2%→今回16.2%)

● 喫煙・受動喫煙

■ 喫煙率は減少傾向

・「喫煙率」12.2%(男子19.0%、女子4.6%)

喫煙率は学年とともに増加

(1年生5.6%→2年生10.7%→3年生14.8%→4年生18.1%)

自宅外生(15.5%)が自宅生(10.0%)を上回る

・「受動喫煙」「非常に気になる」「少し気になる」をあわせると64.5%

・「喫煙をやめたいか」 58.5%が「できればやめたい」

● 違法薬物について

■ 「使っても構わない」と思う学生7.8%

「どのような理由であれ、絶対に使うべきではない」→88.3%

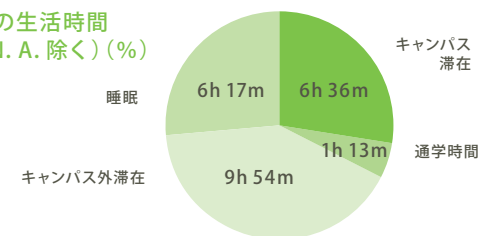
「使うかどうか個人の自由であり、使っても構わないと思う」→6.7%

「一度くらいなら使っても構わないと思う」→1.1%

● 平均的な1日の生活時間

キャンパス滞在時間は、6時間36分と前回調査(6時間21分)から微増となった。滞在時間は前回までと同様、学年の進行とともに減少する傾向が見られる。(1年生：6時間53分→4年生：5時間44分)

※キャンパス滞在時間：授業、図書館・コンピュータ室の利用、課外活動など
 キャンパス外滞在時間：学外講座、アルバイト、自由時間など(睡眠時間を除く)

■ 平均的な1日の生活時間
(概算平均／N. A. 除く)(%)

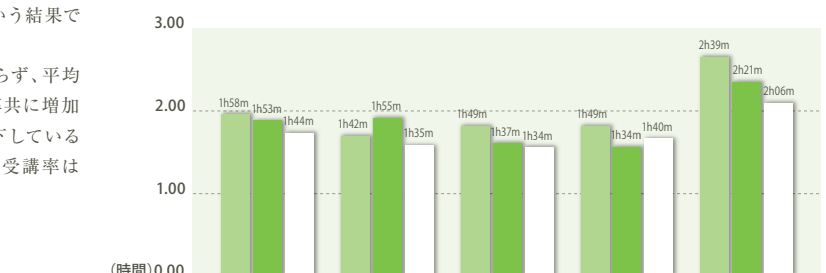
図書館・コンピュータ室等の利用時間、学内の正課外講座

図書館・コンピュータ室等の利用時間は前回とほぼ変わらず、1時間15分であった。男子の37.3%、女子の30.2%が全く利用していないという結果であった。

資格関係講座等の正課外講座の受講時間も前回とほぼ変わらず、平均1時間58分であった。前回と比較して全体的には受講時間、受講率共に増加傾向にある。学年別に見ると1年生は受講時間、受講率ともに低下しているが、2年生以上は、受講時間は全ての学年において増加しており、受講率は2年生・3年生が増加している。



■ 正課外講座受講時間(概算平均／N. A. 除く)



正課外講座 受講率(%)	今 回	15.1	14.2	16.1	19.2	10.1
	前 回	14.9	15.4	15.7	17.2	11.4
	前々回	15.9	16.0	16.3	18.3	11.8

学外の講座・各種学校ーダブルスクール

学外の講座・各種学校(ダブルスクール)に通う学生は7.8%で、前回から1.6ポイント減少した。受講率は前々回から減少傾向にある。受講時間については、増加している。学年別に見ると正課外講座と同様に1年生は低下しているが、2年生以上は、全ての学年において受講時間は増加している。

学部系統別に見ると「法律・政治・社会系」の受講率が高い傾向にあり、受講時間は「商・経済・経営系」が長くなっている。

また、「経済状況は余裕がある」学生の受講率は高く(10.2%)、「経済状況は苦しい」学生の受講率が低い(7.5%)という結果であった。



■ 学外講座受講時間(概算平均／N. A. 除く)



学外講座 受講率(%)	今 回	7.8	4.9	6.7	10.0	9.6
	前 回	9.4	5.2	9.0	10.7	11.7
	前々回	10.7	5.6	8.8	14.2	14.7

通学時間ー往復

自宅通学者の通学時間の平均は前回同様1時間31分(片道45.5分)、自宅外生の平均通学時間も前回と変わらず41分(片道20.5分)であった。自宅外生の91.0%が1時間以内であり前回調査(89.8%)と比較して微増し、90%を超えた。

性別で1時間1分～4時間までの通学時間帯を比較すると、男子(33.5%)に比べ女子(41.1%)の数値が高い。この結果は、自宅外生の差(男子41.4%、女子33.6%)が影響しているものと考えられる。

睡眠時間・就寝時刻

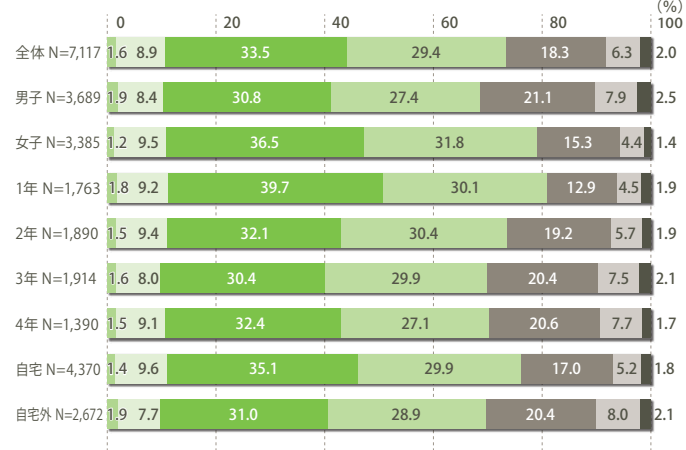
睡眠時間の平均は6時間17分で前回(6時間23分)から微減しており、前々回より漸減傾向にある。

学年が上がるとともに睡眠時間が長くなる傾向が見られた(1年生：6時間13分→4年生：6時間35分)。同じく、学年の上昇とともに就寝時刻が遅くなる傾向は変わらないが、深夜型は全体的に減少傾向にある。

自宅外の学生は、自宅の学生に比べて深夜型の傾向が見られる。



■ 就寝時間



● 興味・関心事

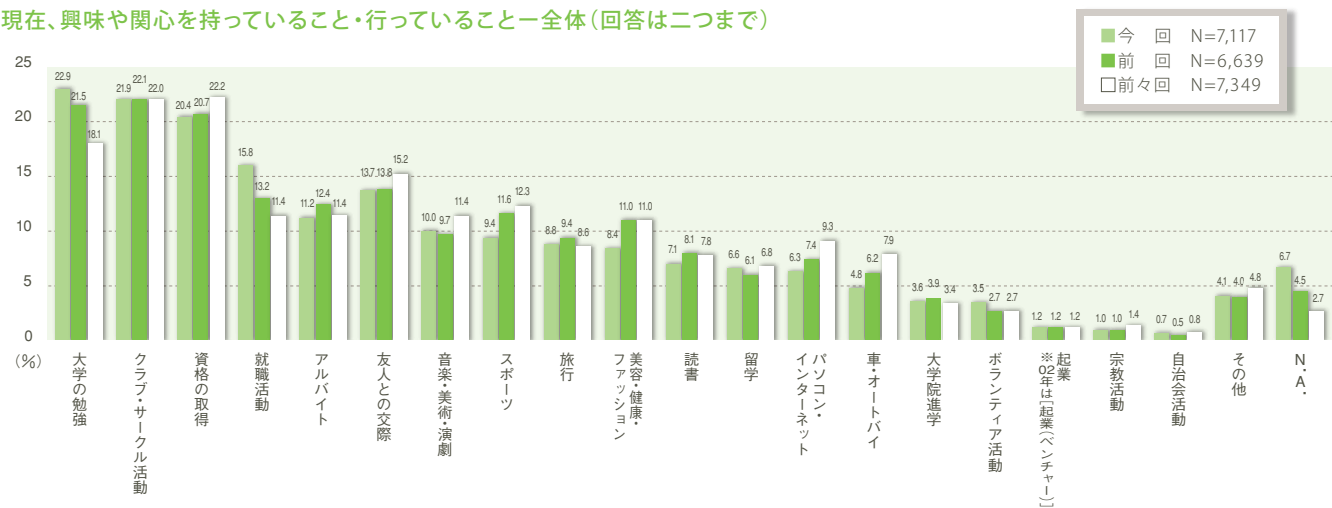
全体

「大学の勉強」が前回よりさらに増加し、「クラブ・サークル活動」を上回りトップとなった。2位の「クラブ・サークル活動」、3位の「資格の取得」については、前回より減少したものの、相変わらず高い数値を維持している。「大学の勉強」は前々回から4.8ポイント増加しており、学習に対する意識の向上が伺える。4位の「就

職活動」も上昇傾向が顕著であった。

一方で、「友人との交際」、「スポーツ」、「美容・健康・ファッション」、「車・オートバイ」などの趣味、娯楽関連の項目は軒並み減少となった。

■ 現在、興味や関心を持っていること・行っていることー全体 (回答は二つまで)



学年別

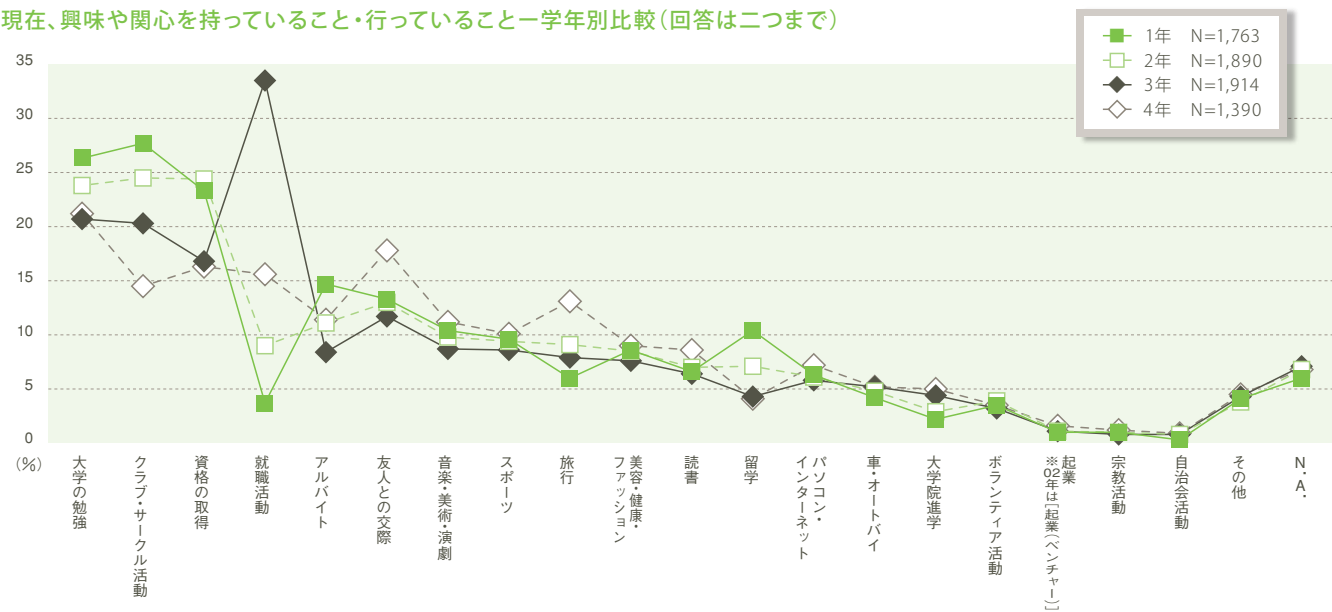
学年別のトップ3は以下の通りである。

- | | | | |
|-----|-------------|---------|-------------|
| 1年生 | ①クラブ・サークル活動 | ②大学の勉強 | ③資格の取得 |
| 2年生 | ①クラブ・サークル活動 | ②資格の取得 | ③大学の勉強 |
| 3年生 | ①就職活動 | ②大学の勉強 | ③クラブ・サークル活動 |
| 4年生 | ①大学の勉強 | ②友人との交際 | ③資格の取得 |

3年生の「就職活動」に対する興味・関心が顕著である。

また、低学年ほど「クラブ・サークル活動」、「留学」や「アルバイト」に対する興味・関心が高くなっている。

■ 現在、興味や関心を持っていること・行っていることー学年別比較 (回答は二つまで)

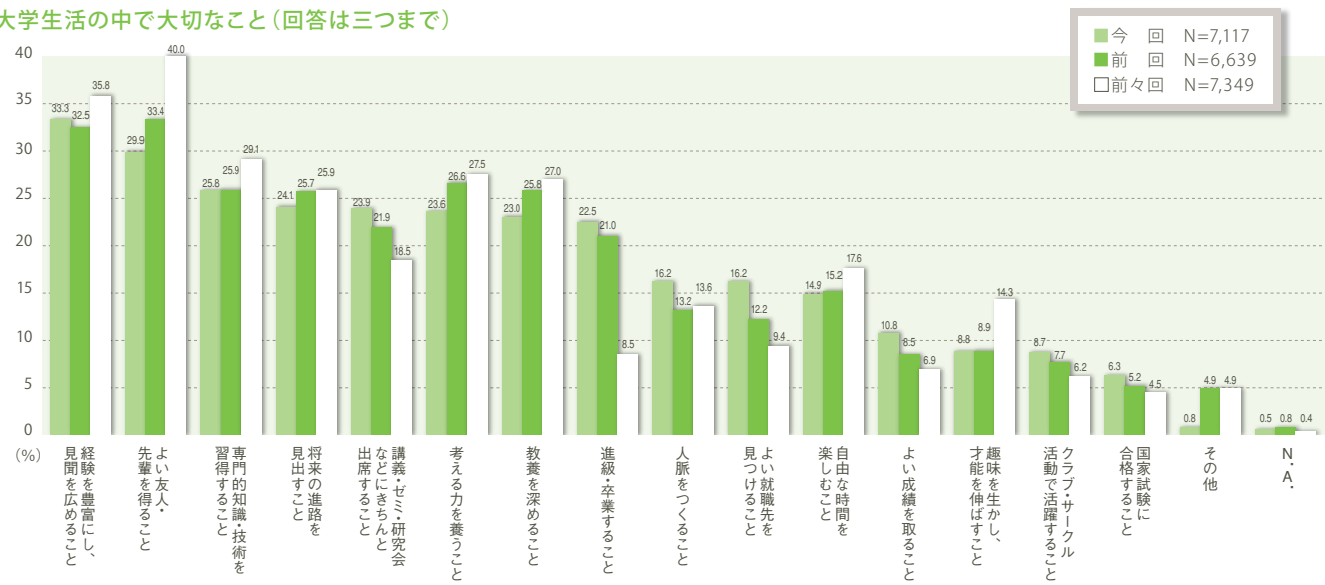


● 大学生活で大切なこと

「経験を豊富にし、見聞を広めること」が前回より微増しトップとなった。前回1位であった「よい友人・先輩を得ること」や、3位だった「考える力を養うこと」は前々回から漸減傾向が続いている。その他「教養を深めること」、「自由な時間を楽しむこと」等も前回より減少している。

一方、「講義・ゼミ・研究会などにきちんと出席すること」、「進級・卒業すること」、「よい就職先を見つけること」、「よい成績を取ること」などが前々回調査から漸増傾向にある。

■ 大学生活の中で大切なこと (回答は三つまで)

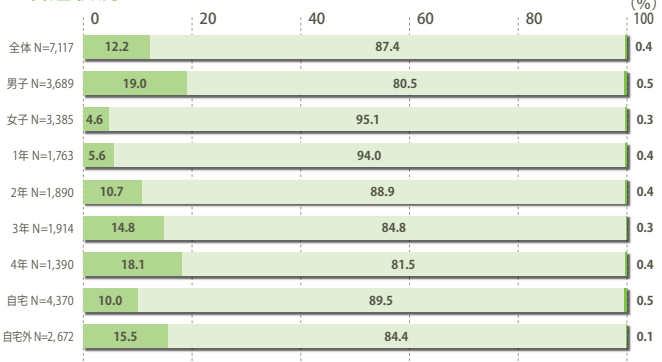


● 喫煙・受動喫煙

全体の喫煙率は12.2%で、前回調査より4.2ポイント減少した。性別で見ると、男子の喫煙率は、6.3ポイント減少し、女子では、1.4ポイント減少した。所属学部満足度、学生生活満足度との関係を見ると、「所属学部に入學してよくなかった」と回答した学生の喫煙率は24.1%、「学生生活は充実していない」では、20.6%など、学校生活に不満のある層の喫煙率が高い傾向が見られた。

また、「キャンパス内での受動喫煙が気になる(「非常に気になる」+「少し気になる」)」と回答した人は全体の64.5%であり、喫煙者の中で「喫煙をやめたい」と回答した人は58.5%であった。

■ 喫煙状況

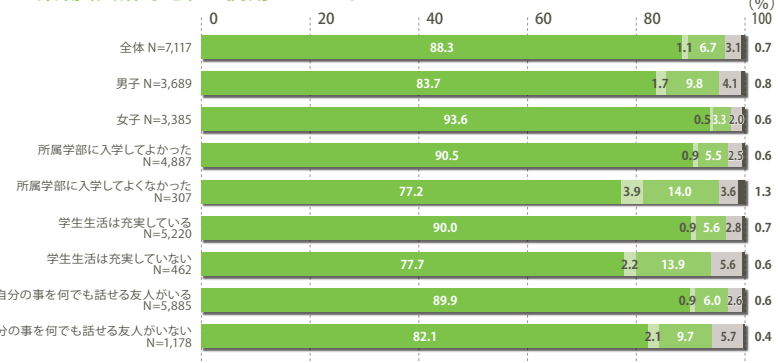


● 薬物の使用について

この設問は、今回調査で初めて設けられた唯一の設問である。「どのような理由であれ、絶対に使うべきではない」と回答した学生の割合が88.3%と高くなっているものの、「使うかどうか個人の自由であり、使っても構わないと思う」(6.7%)、「一度くらいなら使っても構わないと思う」(1.1%)となっている点は看過できない。

「使っても構わない(「個人の自由」+「一度くらいなら」)」と回答した学生の割合は、「所属学部に入學してよくなかった」と回答した学生の17.9%のほり、「学生生活は充実していない」では16.1%、「自分の事を何でも話せる友人がいない」では11.8%となっており、学生生活に不満を持つ層や相談できる友人のいない学生に「使っても構わない」と回答する割合が高くなっていた。

■ 薬物(大麻など)の使用について



comment

前回の調査よりも更に、進級、卒業、就職を意識している傾向が顕著にあらわれた。現在の社会情勢から考えると、学生は限られた時間と厳しい経済状況の中で、自分自身の趣味や楽しみよりも、就職活動や卒業後の生活を強く意識し、着実、堅実な歩みを、現実的に選択せざるを得ない状況だと言えるだろう。それは、学生の本分である教養、知識、技術等の教学に関する項目や、交際、スポーツ、ファッションなどの娯楽的な項目が軒並み減少していることから読み取ることができよう。また違法薬物については「身近にある危機」として捉え、教育の徹底を図る必要があろう。

IV. 正課教育

Academic Programs

● 正課教育の満足度

■ 全体的に増加傾向

カリキュラム(前々回27.8%→前回34.1%→今回37.4%)
授業内容(前々回27.8%→前回34.5%→今回40.4%)、
教授陣(前々回37.0%→前回41.4%→今回48.2%)に満足度が増加
全体的に正課教育の満足度は増加傾向にある。

● 正課教育と課外活動の比重

■ 双方に半分ずつ比重をおく割合が増加

「正課教育中心」は微減(前々回41.4%→前回42.0%→今回40.1%)
「課外活動中心」も微減(前々回17.4%→前回15.0%→今回14.2%)
「正課教育」「課外活動」半分ずつ程度が増加傾向
(前々回31.9%→前回35.7%→今回40.1%)

● 科目履修の動機

■ 学習意欲や興味に関する項目が増加傾向

トップ3は、
1.「専門的な知識が身につく」(前々回32.7%→前回35.8%→今回36.2%)
2.「面白く楽しい講義」(前々回30.9%→前回32.7%→今回35.1%)
3.「講義の時間帯」(前々回37.0%→前回36.5%→今回34.2%)
「講義の時間帯」が減少傾向。より興味があり、役立つ授業を履修する傾向にある。
「視野が広がる」が増加傾向(前々回19.7%→前回20.9%→今回22.9%)

● 講義への希望

■ 教材に関する希望が減少傾向

・増加傾向にある項目
「板書やプレゼンテーションの工夫」
(前々回43.8%→前回45.2%→今回45.8%)
「レジュメの配付」(前々回21.4%→前回24.6%→今回28.5%)
※06年までは「ノート講義の場合、レジュメを配付してほしい」
「私語に注意」(前々回16.9%→前回21.1%→今回21.4%)

・減少傾向にある項目

「社会問題や身近な事例を扱った授業」
(前々回35.4%→前回27.0%→今回24.5%)
「視聴覚教材の活用」(前々回21.4%→前回18.2%→今回16.6%)

● 教育内容・方法への期待

■ 多様な期待に分散傾向

1.「多様な科目選択」(35.0%) 2.「教養科目の充実」(24.2%)
3.「一貫した専門教育」(22.8%) 4.「導入教育の実施」(21.9%)
など、さらに多様な要望に分散傾向
06年より新設した選択肢の「導入教育の実施」(21.9%)が14選択肢中4位
昨年より更に増加し、需要の高まりが見られる。

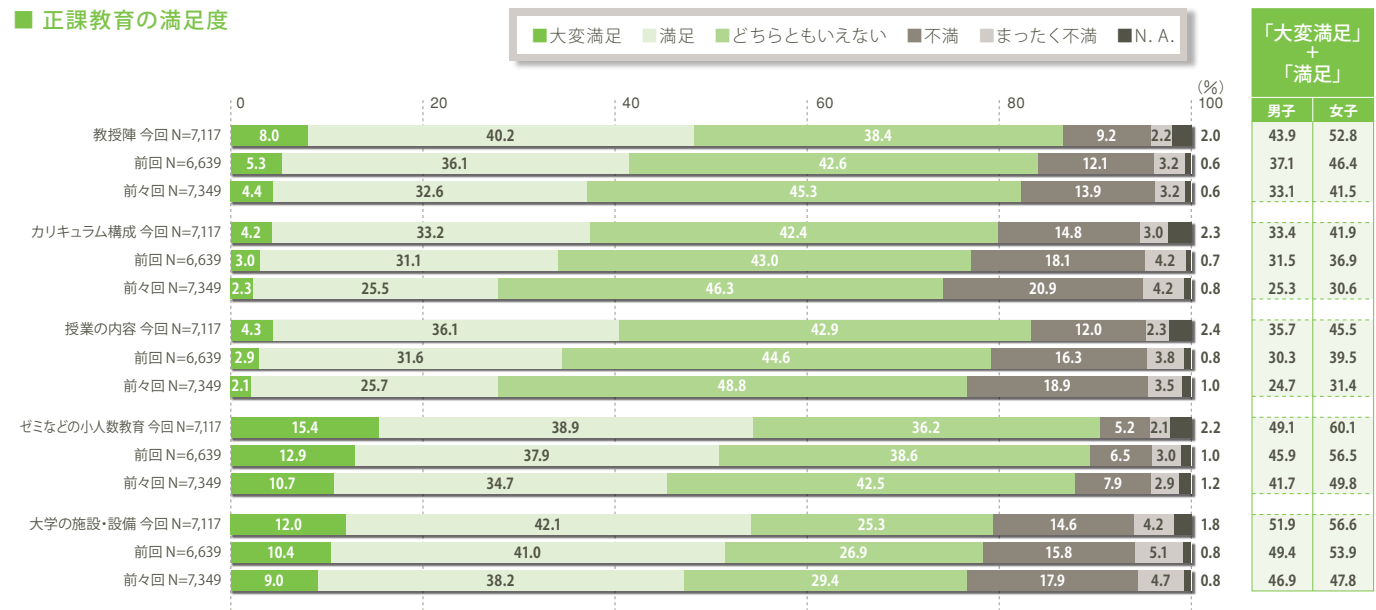
● 正課教育の満足度

今回の調査では、前回調査より正課教育に対する満足度は、全ての指標(「教授陣」、「カリキュラム構成」、「授業の内容」、「ゼミなどの小人数教育」、「大学の施設・設備」)において増加した。特に、「教授陣」(6.8ポイント増加)、「授業の内容」(5.9ポイント増加)については大きな伸びを見せた。性別に見ると、前回と同じく先の指標全てにおいて女子の満足度が男子を上回った。特に「ゼミなどの小人数

教育」では女子の満足度が60%を超えるなど、正課教育への女子の高い満足度が引き続き際立つ結果となった。

大学選択理由で「他に合格した大学がなかったから」を選んだ学生を対象に授業内容の満足度を見ると、「授業の内容に満足していない」学生は25.1%、「授業の内容に満足している」学生は12.6%となり、12.5ポイントの差が見られた。

■ 正課教育の満足度

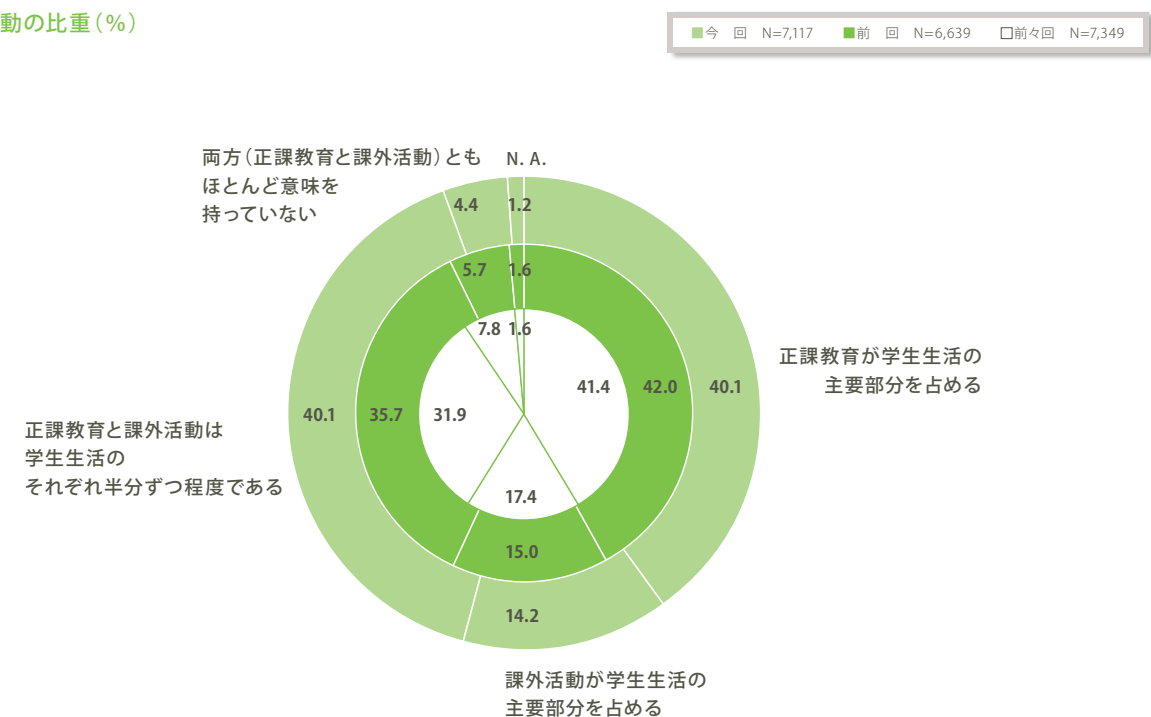


● 正課教育と課外活動の比重

「正課教育と課外活動は学生生活のそれぞれ半分ずつ程度である」と回答した学生の割合は、前々回から漸増傾向にあり、前回35.7%から4.4ポイント増加

し、40.1%となった。その結果、これまでの調査において最も高かった「正課教育が学生生活の主要部分を占める」(40.1%)と同率となった。

■ 正課教育と課外活動の比重 (%)

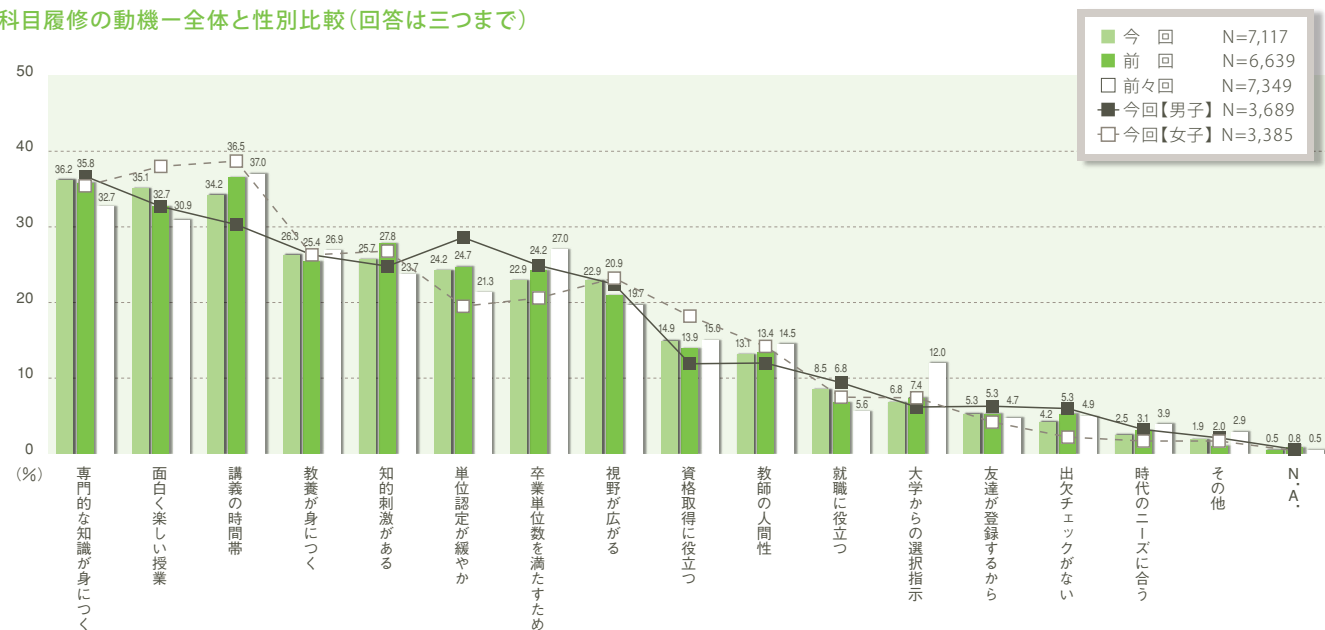


●科目履修の動機

1位の「専門的知識が身につく」と2位の「面白く楽しい授業」の上位二つは、前々回から漸増傾向にある。

一方で、「講義の時間帯」や「単位認定が緩やか」、「卒業単位を満たすため」などの、授業や学習に対する消極的な動機に関する項目は、全体的には減少傾向にあるものの、依然として20%を超えており、上位にランクされている。

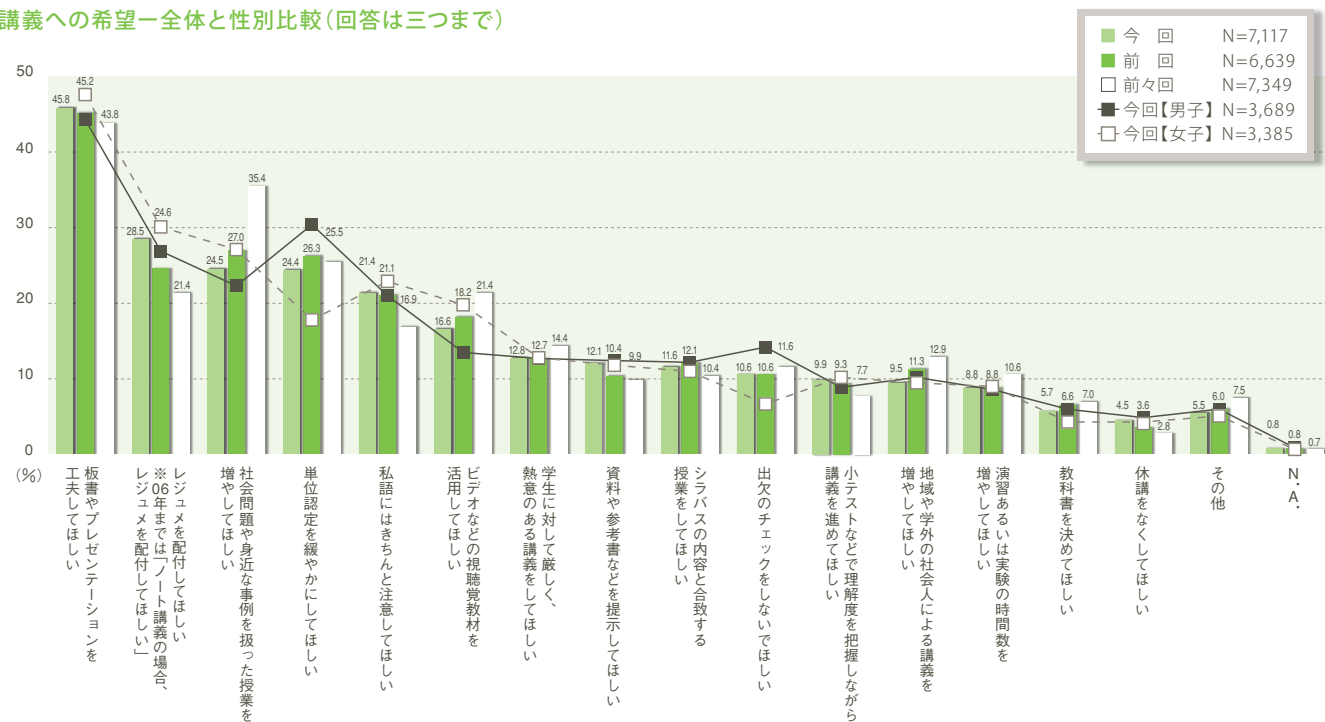
■科目履修の動機—全体と性別比較（回答は三つまで）



●講義への希望

1位の「板書やプレゼンテーションを工夫してほしい」と2位の「レジュメを配付してほしい」の上位二つは増加傾向にあった。特に2位の「レジュメを配付」については前回よりも3.9ポイント、前々回からは7.1ポイント増加している。3位の「社会問題や身近な事例を扱った授業を増やしてほしい」は、前々回から10ポイント以上減少しているが、全体から見るとニーズは高い。4位の「単位認定を緩やかにしてほしい」、5位の「私語にはきちんと注意してほしい」も20%を超えており、高い割合となっている。また「社会問題や身近な事例を扱った授業」や「視聴覚教材の活用」、「地域や学外の社会人による講義」等に対する希望は減少していた。

■講義への希望—全体と性別比較（回答は三つまで）

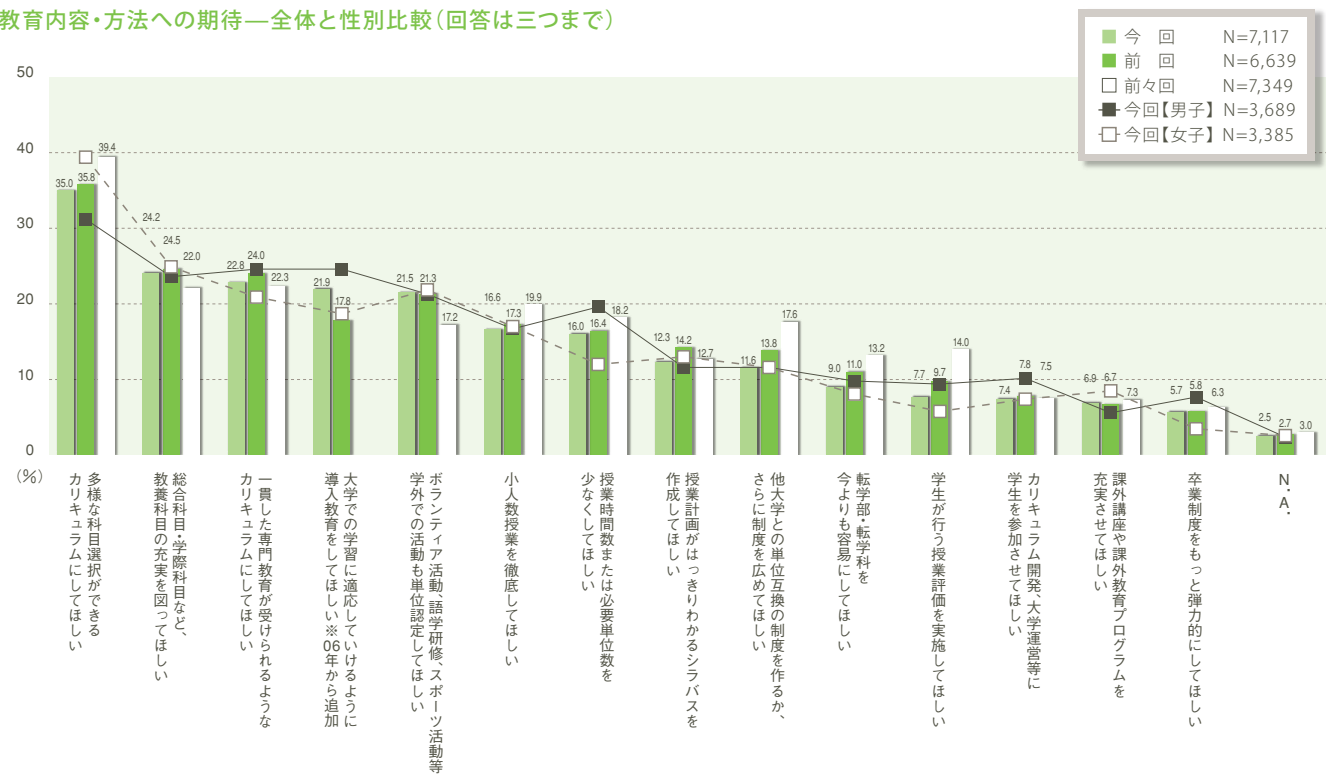


●教育内容・方法への期待

今回の調査では、前回の調査に引き続き、多くの項目で減少、または横ばいという結果となった。前回の調査で増加した「総合科目・学際科目など、教養科目の充実を図ってほしい」、「一貫した専門教育が受けられるようなカリキュラムにしてほしい」、「授業計画がはっきりわかるシラバスを作成してほしい」等の上位項目も今回調査で減少している。

一方、増加した項目は、「ボランティア活動、語学研修、スポーツ活動等学外での活動も単位認定してほしい」、「大学での学習に適応していけるように導入教育をしてほしい」、「課外講座や課外教育プログラムを充実させてほしい」であった。そのうち、「ボランティア活動、語学研修、スポーツ活動等学外での活動も単位認定してほしい」は、前々回から増加傾向が続いている。

■教育内容・方法への期待—全体と性別比較（回答は三つまで）



comment

前回の調査でも正課教育に対する満足度の向上は見られたが、今回の調査結果を前々回、前回と比較すると、全体的な満足度が継続的に向上していることは明白であり、大学が敏感に学生の要望や期待を受け止め、適切な改善策を行ってきたことを示す結果と言えるのではないだろうか。

前回に引き続き男子で特に顕著だったのは、「単位認定がゆるやか」や「出欠チェックをしないほしい」などの回答から分かるように、正課教育に対する消極的、安易な姿勢であった。一方、女子の正課教育に対する履修動機が大きかった「面白い授業」、「楽しい授業」、「資格取得に役立つ授業」などから分かるように、女子の積極的な姿勢についても前回調査に引き続き顕著な結果となった。

今後は、継続的な取り組みにより満足度を向上させると共に、今回ニーズの高かった「ボランティア活動等学外活動の単位認定」や「導入教育の実施」等のような新たな課題を洗い出し、改善策を検討することも必要になってくるであろう。

V. 正課外活動

Activities

● 課外活動参加について

■ 参加する学生は増加傾向

積極的に参加(前々回45.1%→前回46.5%→今回49.5%)
前回調査より3.0ポイント増加。半数近い学生が積極的に参加しており、
なお増加傾向にある。

● どのような課外活動を好むのか

■ 「文化・芸術活動」が大きく増加

トップ3は、
1.体育会活動(前々回28.1%→前回29.4%→今回28.0%)
2.文化・芸術活動(前々回22.3%→前回22.3%→今回27.0%)
3.スポーツ・レクリエーション活動(前々回27.4%→前回21.5%→今回18.2%)
ボランティア活動(前々回4.7%→前回7.0%→今回8.4%)
体育会活動は引き続き1位であるが、今回の調査で文化・芸術活動が
大幅に伸び、差は僅差となった。

● 課外活動によって何を得るのか

■ 「友人・居場所を得た」が圧倒的1位

学年比較 「人格形成」
1年生16.6%(前回17.5%) 4年生29.6%(前回35.3%)
「社会への貢献」
1年生2.9%(前回3.6%) 4年生6.9%(前回7.0%)
「就職に役立ちそうであった(役立った)」(今回から追加)
1年生4.1% 2年生6.3% 3年生10.3% 4年生11.2%

今回の調査から追加された「就職に役立ちそうであった(役立った)」については、
学年別にみると3年生・4年生の割合が高くなっている。

● 課外活動の新しい傾向

■ インターンシップ、ボランティアに対する参加率、認知度の増加

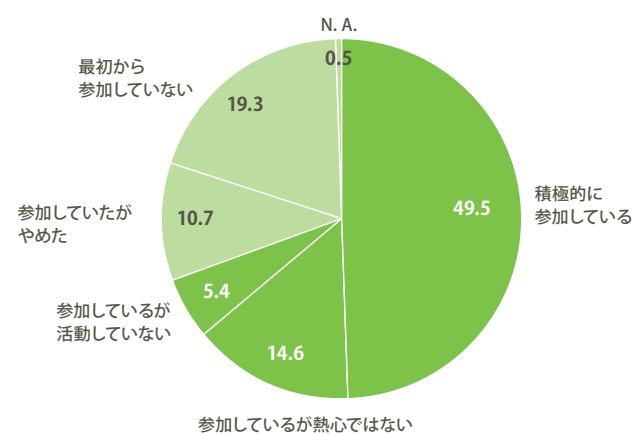
インターンシップ 「すでに参加した」
3年生(前々回6.5%→前回13.1%→今回19.4%)
4年生(前々回6.7%→前回15.7%→今回21.0%)
「興味はある」
1年生(前々回25.0%→前回40.0%→今回45.9%)
2年生(前々回27.1%→前回42.9%→今回49.0%)
ボランティア活動参加率 (前々回17.3%→前回23.4%→今回26.5%)

インターンシップへの関心が前回に引き続き高まった。学年別にみると
1年生・2年生が高い関心を示した。また、3年生・4年生の「すでに参加
した」層の伸びも継続されている。ボランティア活動の参加率について
は漸増傾向にあり、「地域活性化活動」と「環境保全活動」の増加が
目立っている。

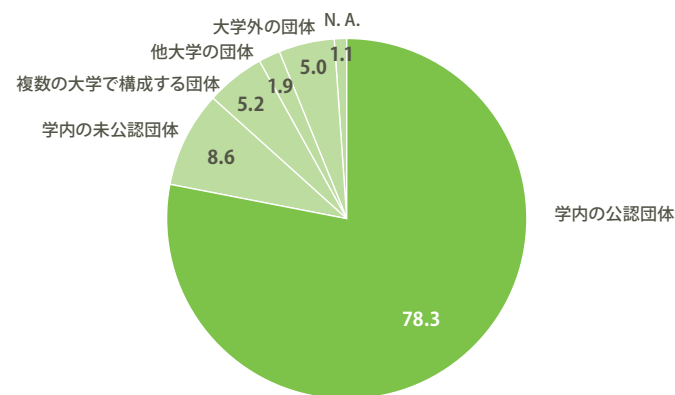
● 課外活動参加(クラブ・サークル活動・ボランティア)について

課外活動の参加率は69.5%であり、前回よりも5.9ポイント増加した。中でも
「積極的に参加している」が49.5%で、前回(46.5%)より3.0ポイント増加した。参
加している団体は、1位の「学内の公認団体」が前回(76.5%)より1.8ポイント増
加し引き続き圧倒的な参加率となった。2位は「学内の未公認団体」で前回
(9.8%)より1.2ポイント減少、4位の「大学外の団体」は前回(5.1%)より0.1ポ
イント減少となった。3位の「複数の大学で構成する団体」については前回(4.3%)
より0.9ポイントの増加となり、参加率は前々回より継続的に増加傾向にある。

■ 課外活動への参加(%) N=7,117



■ 参加している課外活動団体(%) N=4,946



● どのような課外活動を好むのか

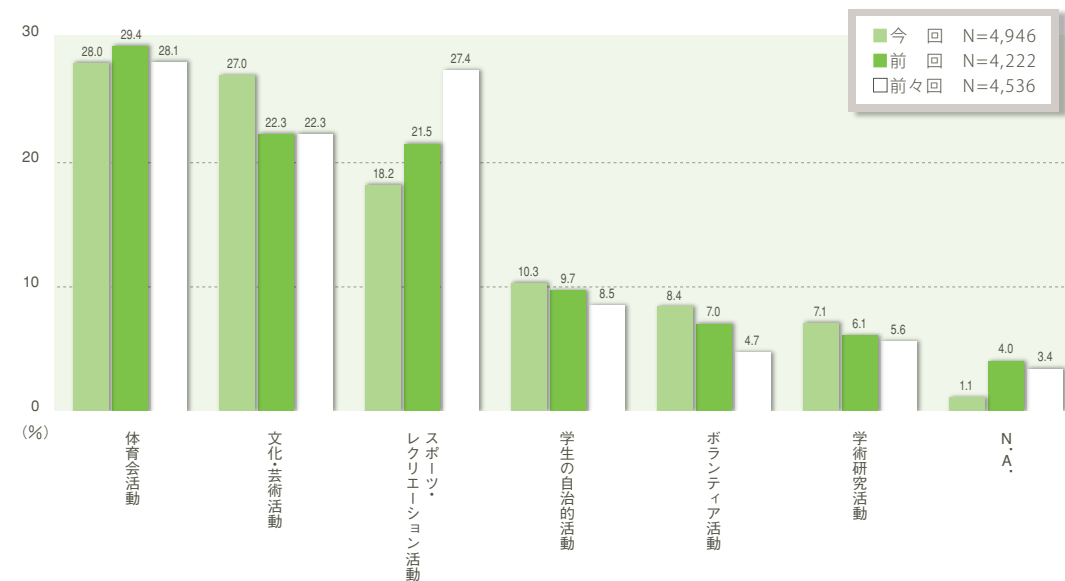
1位の体育会活動は微減ながら、安定的に多くの参加率を維持している一方、
「文化・芸術活動」が前回より4.7ポイント増加している。この項目について性別に
見ると、男子の伸び率(前回19.5%→今回23.2%)よりも女子の伸び率(前回
25.8%→今回30.9%)が高い。また、「文化・芸術活動」への参加率について学生
生活充実度で比較すると「学生生活が充実していない」(前回19.9%→今回
20.6%)よりも「学生生活が充実している」(前回22.1%→今回28.1%)と回答

した学生の参加率が高いという結果であった。

なお、3位の「スポーツ・レクリエーション活動」の低下傾向は引き続き顕著であ
り、前々回からは9.2ポイントの減少となっている。

また、前回に引き続き今回も、「自治的活動」、「ボランティア活動」、「学術研究
活動」が増加しており、学生の関心がより拡大、多様化しているという傾向が見て
取れる。

■ 課外活動内容

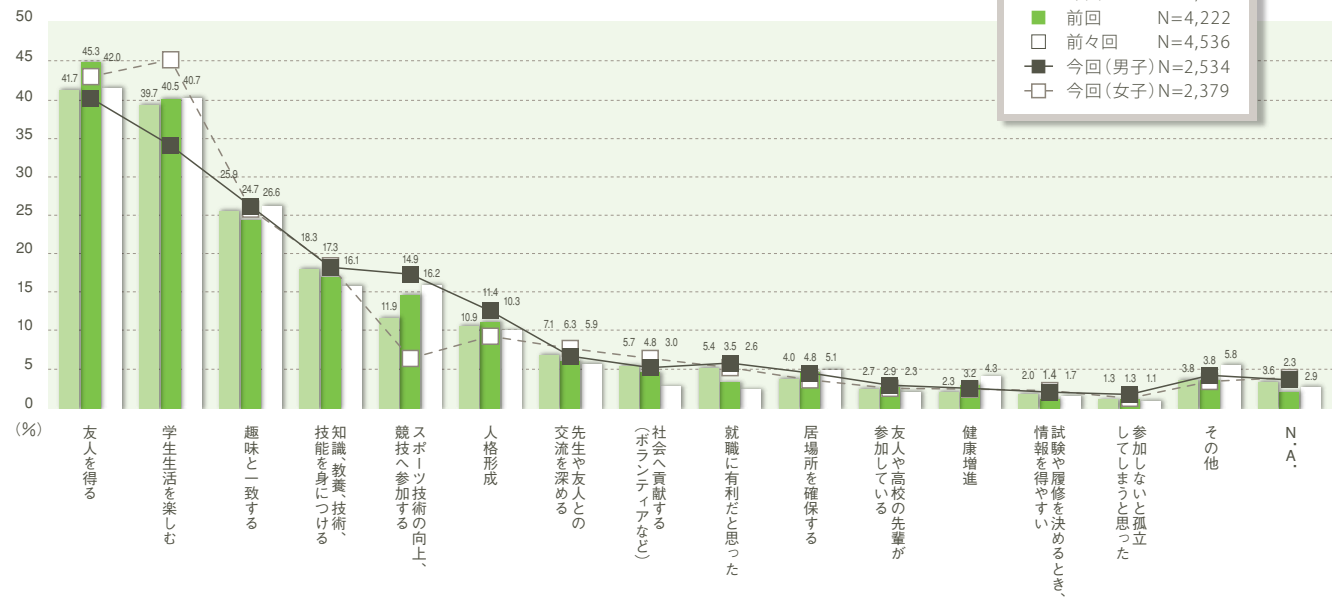


● 課外活動に参加している目的

上位3位までに順位の変動は見られない。1位の「友人を得る」は前回から3.6ポイント減少しているが、引き続き高い数値となっている。2位の「学生生活を楽しむ」は微減、3位の「趣味と一致する」は微増となったが、大きな変化はなかった。性別で比較すると、「学生生活を楽しむ」が男子34.1％に対して女子が45.3％となり、11.2ポイントの差があった。また、「友人を得る」についても男子40.3％に

対して女子が43.1％となり、女子の方が高い数値となった。一方、「スポーツ技術の向上、競技へ参加する」については女子6.3％に対し男子は17.3％となり、11.0ポイントの差があった。その他、「人格形成」については女子が9.2％、男子が12.5％で、3.3ポイントの差があった。

■ 課外活動に参加している目的 (回答は二つまで)

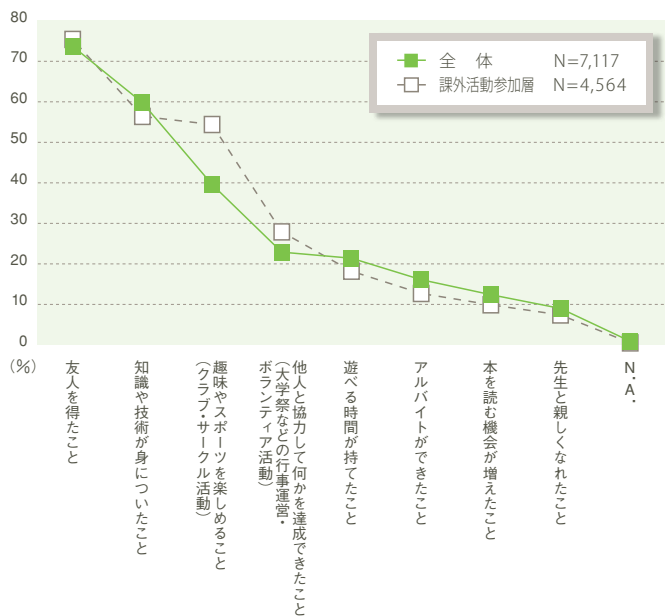


● 学生は課外活動によって何を得るのか

全体と課外活動参加層の比較

前回に引き続き「大学に入ってよかった点」について、課外活動参加者と全体との比較を行った。大きく差が開いたのは、「趣味やスポーツを楽しめること」、「他人と協力して何かを達成できたこと」の二つであり、課外活動参加者が全体をそれぞれ14.8ポイント、5.0ポイント上回っている。この傾向は前回と同様であった。一方、「遊べる時間」、「アルバイト」、「本を読む機会」、「先生と親しくなる」という点については、課外活動に参加していない学生よりも課外活動参加者の方が低い数値となった。これらも前回の調査とほぼ同じ傾向であった。

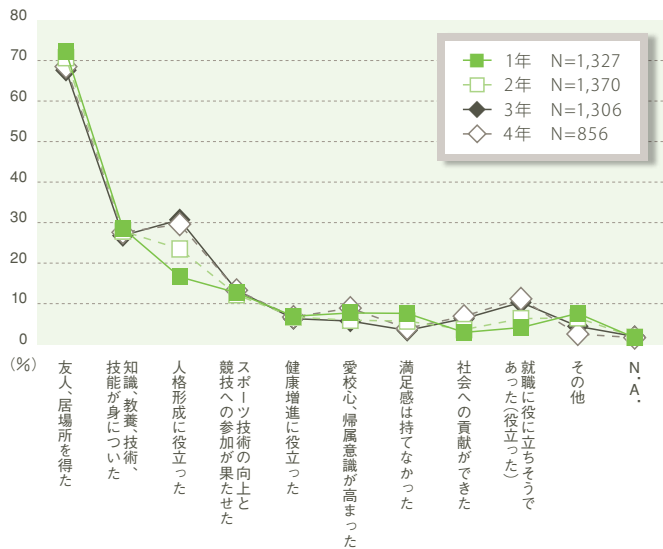
■ 大学に入ってよかった点 (回答は三つまで)



学年比較

課外活動参加者全体を対象として、課外活動に参加して満足を得た活動について聞いたところ、1位「友人・居場所を得た」(前回71.2％→今回69.9％)、2位「知識・教養・技術・技能が身についた」(前回29.0％→今回27.7％)、3位「人格形成に役立った」(前回26.9％→今回24.8％)という結果となり、順位に変動はなかったものの、全ての項目において減少傾向が見られた。学年別に見ると、前回と同様に「人格形成に役立った」と回答した割合が高学年ほど高かった。また、今回より新たに新設された「就職に役立ちそうであった(役立った)」についても高学年ほど高くなっていた(1年生4.1％→4年生11.2％)。

■ 課外活動に参加しての満足度—学年別比較 (回答は二つまで)



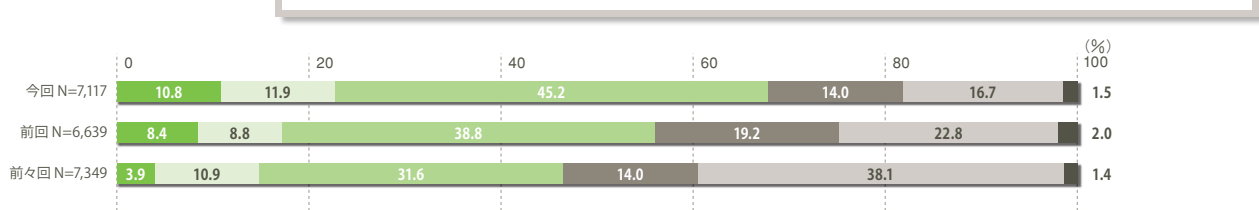
● 課外活動の新しい傾向

インターンシップ

インターンシップに「すでに参加した」学生は前回(8.4％)から2.4ポイント増加、「ぜひ参加したい」は前回(8.8％)から3.1ポイント増加となった。「興味はある」は前回(38.8％)より6.4ポイント増加し、前々回(31.6％)からは13.6ポイント増加している。一方、「興味はない」が前回(19.2％)より5.2ポイントの減少となった。「わからない」は前回(22.8％)より6.1ポイント減少し、前々回(38.1％)からは21.4ポイント

減少している。「すでに参加した」、「ぜひ参加したい」について、全体は微増ながら、「すでに参加した」3年生が前回(13.1％)から6.3ポイント増加、「ぜひ参加したい」2年生が前回(13.5％)から5.0ポイント増加している。以上のことから、「インターンシップ」は確実に浸透しつつあり、学生の認知度が上がってきていることが明らかとなった。

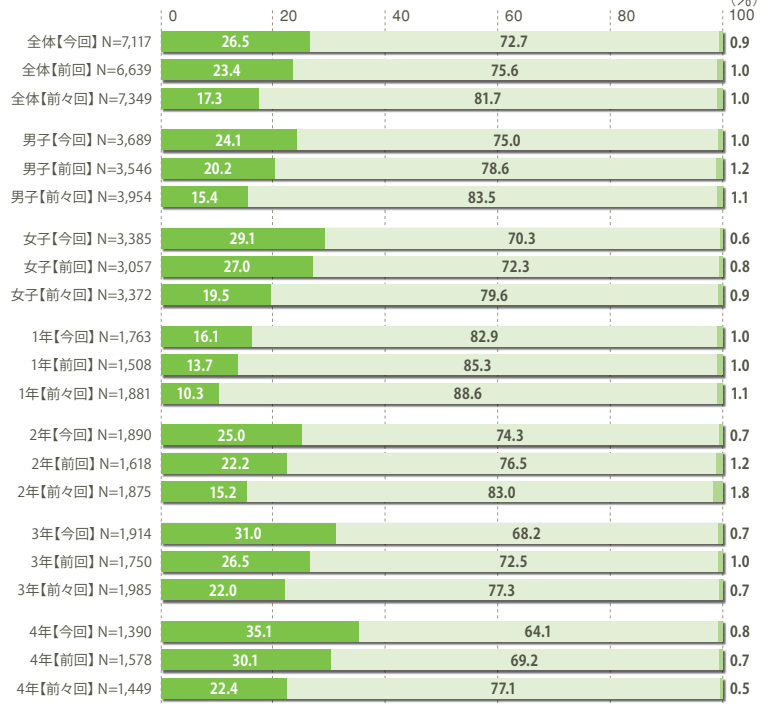
■ インターンシップへの参加意向



ボランティア活動

ボランティア活動に対する学生の関心は引き続き増加傾向にある。「大学入学後にボランティア活動に参加した」学生は、前回から3.1ポイント増加して26.5％となった。前回と同じく女子の参加率が高く、今回29.1％となり、約3割の女子が大学入学後にボランティア活動に参加した経験を有していた。学年別に見ると、学年が上がるにつれてボランティア経験者が増加し、最終学年の4年生では、参加率35.1％にのぼり、全体平均より8.6ポイント高くなっている。

■ ボランティア活動への参加有無



comment

学生はこれまでよりも積極的に課外活動に参加しているという結果であった。学生の約70％が参加し、その8割が大学の公認団体を拠点として多様な活動を行っているなど、課外活動が、正課教育と同様に、学びを深める、仲間と共に趣味やスポーツを楽しむ、社会経験を積んで見聞を広げる等、大学における重要な教育の営みの場となっている実態が明らかとなった。今後、課外活動に参加している層には更なる充実感を、そして参加していない層に対しては、魅力を感じ課外活動へ参加するように、引き続き活動の場や資金面などの支援を行うなど、全面的なバックアップの必要がある。課外活動への参加目的に性別で差が見られたが、男女別や学年別、志向別など多様なニーズに対応できる柔軟性も必要であろう。正課教育の項でも述べたように、「ボランティア活動など学外活動での単位認定」のニーズは増加傾向にある。インターンシップでの活動を卒業単位として認定するように、ボランティア活動を単位認定するなど、活動の評価体制や支援体制を整備することで、ボランティア活動に対するより一層の参加意欲の促進が期待できよう。

VI. 不安・悩み

Worries

● 友人がいる・いない

■ 学生生活の充実度と友人の有無は相関関係にある

自分のことを何でも話せる友人が

「いる」(前々回83.6%→前回81.7%→今回82.7%)

「いない」(前々回15.3%→前回17.4%→今回16.6%)

「学生生活が充実していない」学生で「いない」と回答した学生→38.3%

「所属学部に入學してよかった」学生で「いない」と回答した学生→31.9%

● 不安・悩みの内容

■ 将来に不安を感じている学生は半数以上

トップ3は、

1.「就職や将来の進路」(前々回1位36.7%→前回1位51.4%→今回51.5%)

2.「授業など学業」(前々回2位9.3%→前回3位18.0%→今回21.3%)

3.「友人等との対人関係」(前々回3位8.0%→前回4位14.8%→今回17.7%)

(注)回答選択数(前々回1つ→前回・今回2つまで)

● 相談相手

■ 友人への相談が減少、家族への相談が増加

「友人」(前々回77.2%→前回76.4%→今回72.5%)

「家族」(前々回39.9%→前回36.7%→今回41.1%)

「自分の事を何でも話せる友人がいない」学生で「誰とも相談しない」→46.9%

・家族への相談は男子より女子の方が圧倒的に多い

男子→34.5%、女子→48.3%

● ハラスメント〈嫌がらせ〉について

■ 「受けたことがない」が増加傾向

「受けたことがない」(前々回79.1%→前回84.5%→今回86.7%)は増加

「飲酒の強要」(前々回5.2%→前回3.1%→今回2.6%)は微減

「セクシュアル・ハラスメント」(前々回2.7%→前回1.6%→今回1.5%)は微減

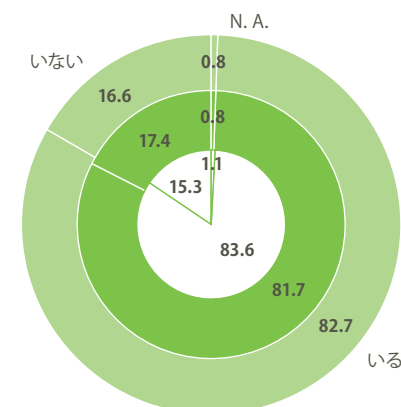
「アカデミック・ハラスメント」(前々回1.1%→前回1.2%→今回1.5%)は微増

● 友人がいる・いない

「自分のことを何でも話せる友人」が「いる」と回答した学生の割合は、前回81.7%だったが、今回82.7%となり、1.0ポイント増加した。逆に「いない」と回答した学生は、17.4%から16.6%に減少した。

■ 今 回 N=7,117 ■ 前 回 N=6,639 □ 前々回 N=7,349

■ 自分の事を何でも話せる友人の有無(%)

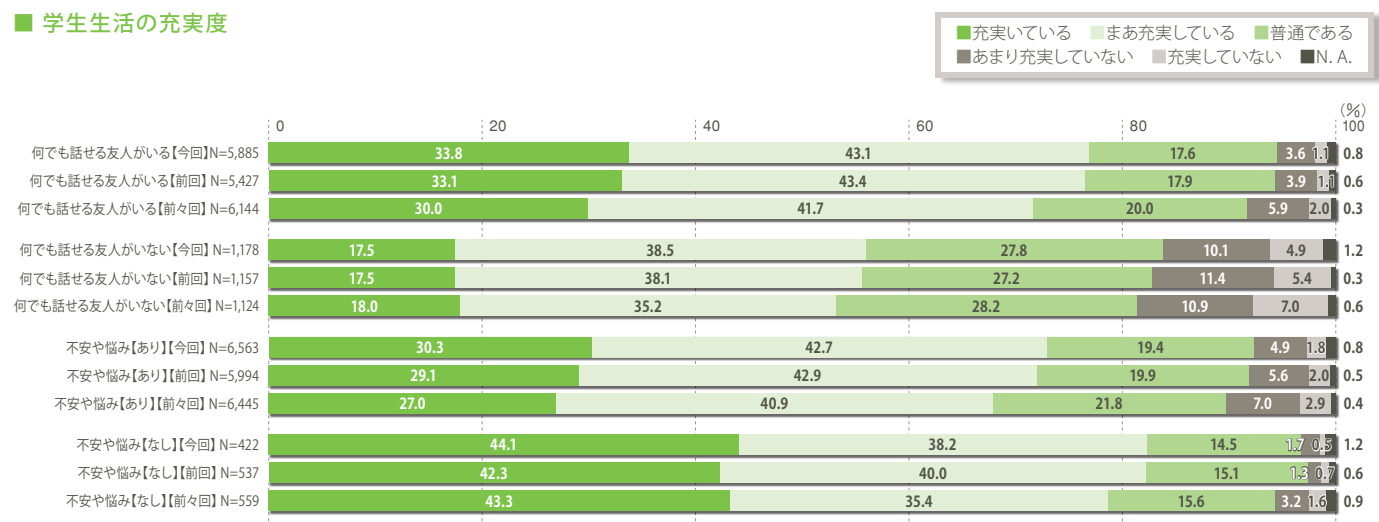


友人・不安や悩みの有無からみた学生生活充実度

友人・不安や悩みの有無別に学生生活充実度を見ると、「何でも話せる友人がいる」と回答している学生ほど「学生生活は充実している」「充実している」+「まあ充実している」)と回答する傾向が強い。また不安や悩みを有する学生ほど学生生活の充実度は低い傾向が見られる。

また、何でも話せる友人が「いない」と回答した学生の中で、「所属学部に入學してよかった」と回答した学生が 31.9%にのぼるなど、友人の有無と学生生活の充実度や満足度は大きく関係していることが伺える。

■ 学生生活の充実度



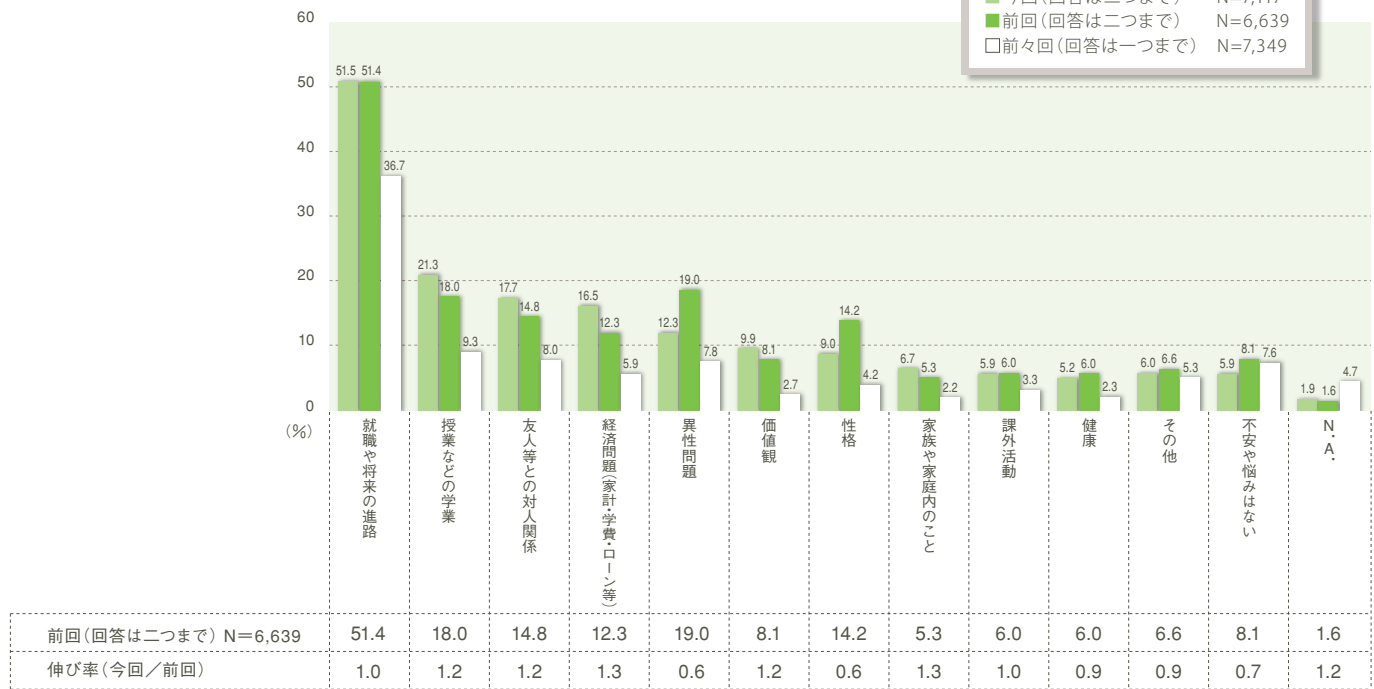
不安・悩みの内容

1位は前回同様、「就職や将来の進路」であった。数値的には0.1ポイントの微増となり、ほぼ横ばいだったが、50%を超えており、非常に高い数値となっている。2位の「授業などの学業」(前回18.0%→21.3%)、3位の「友人との対人関係」(前回14.8%→17.7%)、4位の「経済問題」(前回12.3%→16.5%)など上位の項目も前々回から漸増

傾向にある。

前回大きく増加した「異性問題」は、今回は減少し5位となった(前回2位19.0%→12.3%)が、「友人等との対人関係」、「家族や家庭内のこと」など、友人や家族との関係に関する不安や悩みは増加傾向にある。

不安・悩みの内容－全体



不安・悩みの内容(1年生)

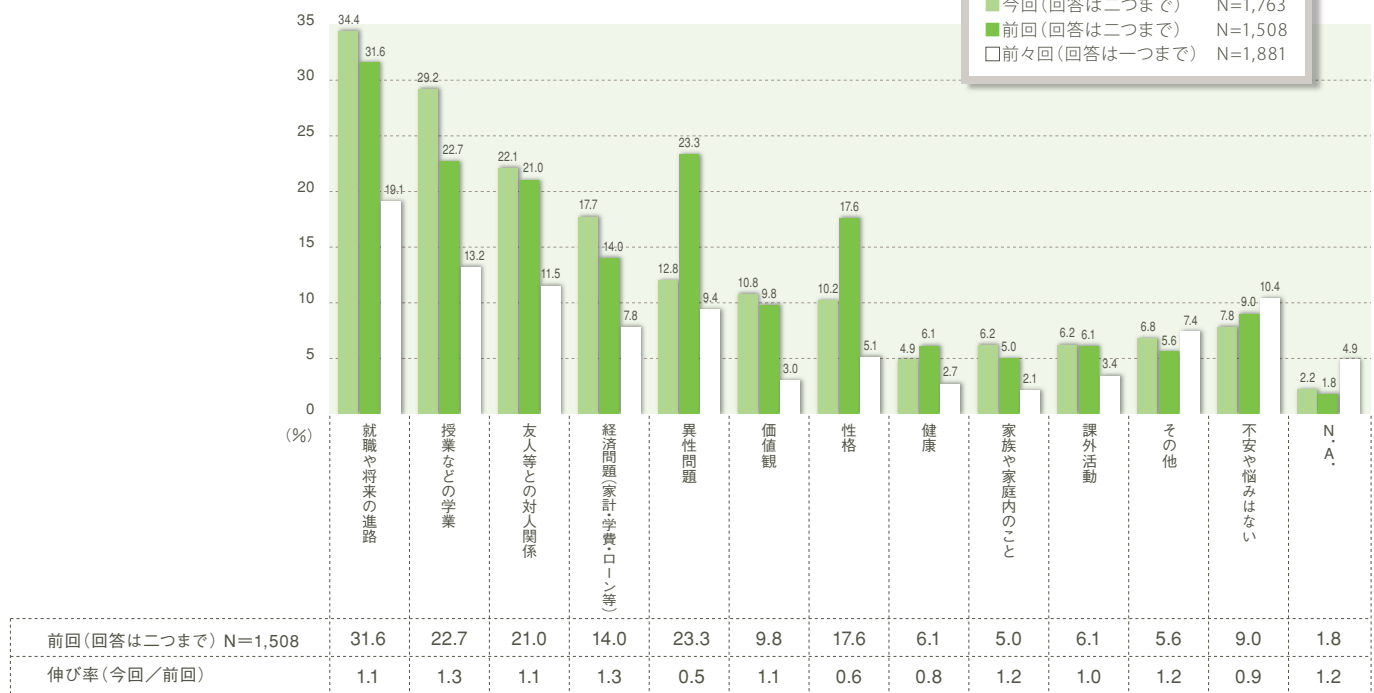
1年生を抽出して前回と比較を行った。

「就職や将来の進路」については、全学年を対象とした数値(51.5%)と比較すると低いものの、34.4%と最も高くなっている。前回からは2.8ポイントの増加だが、前々回からは15.3ポイントの増加となり、入学時から就職等、将来の自分をイメージしている学生が多くなっていることが分かる。

また、2位の「授業などの学業」も前回(22.7%)から6.5ポイント増加しており、前々回(13.2%)からは16.0ポイントの増加と、「進路」と同様に増加している。

前回増加した「異性問題」と(前回23.3%→今回12.8%)と「性格」(前回17.6%→10.2%)は今回減少した。

不安・悩みの内容－1年生



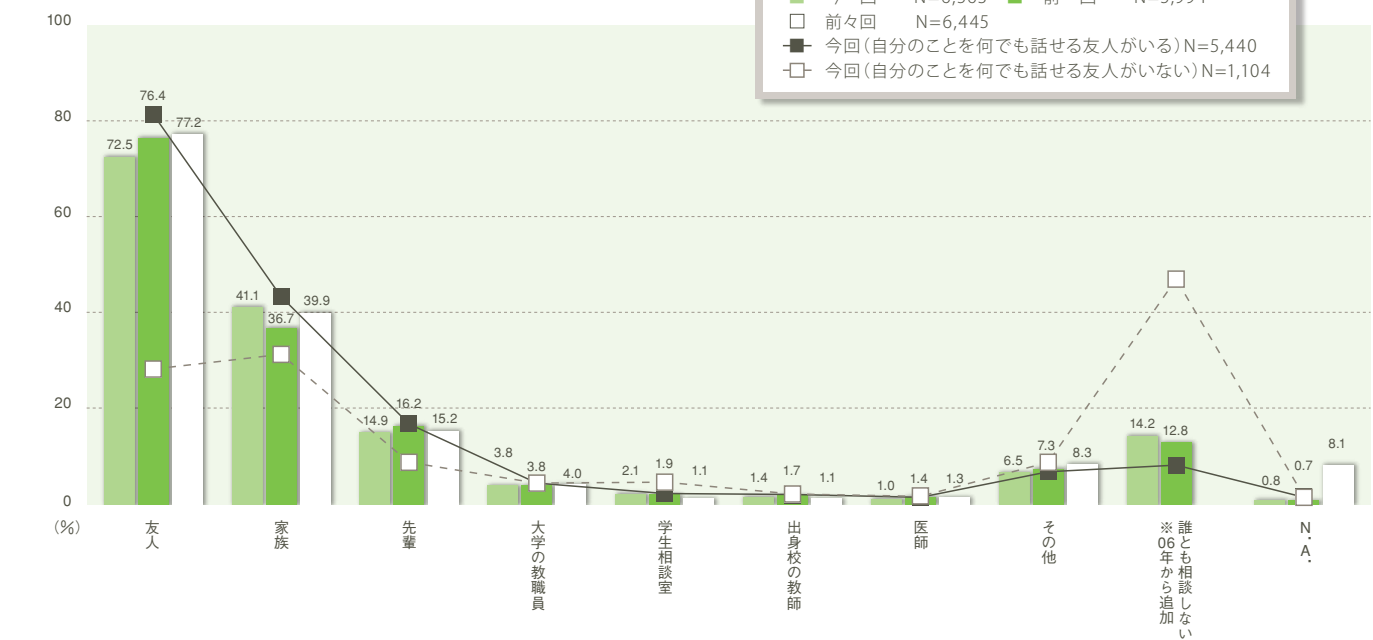
相談相手

「誰とも相談しない」に着目すると、全体では14.2%だが、自分のことを何でも話せる友人が「いない」学生のうち、「誰とも相談しない」学生は前回(45.7%)より1.2ポイント増加して46.9%となっており、友人がいない学生のほぼ半数が孤立している傾向にある。また、前回に引き続き「誰とも相談しない」傾向は、女子(10.6%)より男子(17.5%)に、高学年(4年生10.8%)より低学年(1年生16.5%)において顕著であった。

相談相手の中で「家族への相談」について性別、学年別で見ると、男子(34.5%)より女子(48.3%)、低学年(1年生37.8%)より高学年(4年生45.8%)で家族に相談する割合が高くなっていた。

自分のことを何でも話せる友人が「いない」学生の相談相手については、「家族」と回答した学生の割合が31.0%と最も高く、前回の27.5%から3.5ポイント増加している。

相談相手(回答は二つまで)



ハラスメント<嫌がらせ>について

ハラスメントを「受けたことがない」学生は86.7%で、前回(84.5%)より2.2ポイント増加しており、前々回から漸増傾向にある。

性別に見ると、「受けたことがない」と回答した割合は、男子は84.9%で前回(82.7%)より2.2ポイントの増加、女子は88.8%で前回(86.8%)より2.0ポイントの増加となった。

「受けたことがある」ハラスメントの内容の1位は前回に引き続き「飲酒の強要」で、前回(3.1%)より0.5ポイント減少した。

それぞれのハラスメントの割合は減少傾向にあるものの「アカデミック・ハラスメント」は0.3ポイント微増し、1.5%となっている。

comment

学生が持つ不安や悩みの内容は、前回に比べて、「就職や将来」、「授業などの学業」、「経済問題」など、現実的な問題が増加していることが分かった。特に「就職や将来」に関する不安、悩みは大きく、昨今の社会情勢を考えれば、50%超という数値も致し方ない結果と言えよう。1年生の不安・悩みの事項においても「就職や将来の進路」は前々回から大幅に増加しており、「就職難」という現実と直面し、入学の段階からそれを優先して考えざるを得ない状況にあることを示していると言える。

「授業などの学業」と「経済問題」も、「就職や将来」ほど高い数値ではないが、前々回から大幅に増加しており、看過できない結果となっている。手厚いキャリア支援や教学に関するサポート、資金面での援助策等、様々な状況で直面するであろう不安や悩みを予測し、即座に対応できる態勢と環境整備が求められる。

Ⅶ．進路・就職

Career Options

● 就職への不安

■ 「就職できるかどうか」が大幅増

トップ3は、
 1. 「就職できるかどうか」
 (前々回49.3%→前回46.3%→今回61.5%)
 2. 「自分の適性にあった職業を選べるか」
 (前々回44.0%→前回42.2%→今回33.5%)
 3. 「就職すること自体」
 (前々回24.3%→前回22.5%→今回24.9%)
 自分の適性以前に、「就職」「安定」への意識変化が伺える。

● 希望する進路(学年別)

■ 学年の上昇と共に志向に変化

・学年が低いほど安定・現実的志向
 公務員希望者1年生37.5%→4年生22.0%
 ・学年が上がるにつれて、進路に対する選択が現実的になる傾向
 「専門職」1年生18.5%→4年生14.5%
 「教育・研究職」1年生13.4%→4年生11.2%

● 希望する進路(系統別)

■ 系統によって希望はさまざま

・公務員希望者
 「法律・政治・社会系」がトップ(39.5%)。「理・工系」が最下位(28.2%)
 ・民間企業・団体希望者
 「商・経済・経営」がトップ(71.1%)。「人文学系」が最下位(57.3%)
 ・教育・研究職希望者
 「人文学系」がトップ(19.4%)。「商・経済・経営」が最下位(4.8%)
 ・研究大学院希望者
 「理・工系」がトップ(13.3%)。「商・経済・経営」が最下位(1.8%)

● どんな民間企業を志望するか

■ 「安定しているところ」が大幅増

トップ3は、
 1. 「安定しているところ」(前々回45.9%→前回47.9%→今回56.9%)
 2. 「自分の能力を活かせるところ」(前々回47.5%→前回38.1%→今回34.2%)
 3. 「給与の高いところ」(前々回21.0%→前回24.9%→今回22.5%)
 「自分の能力を活かす」よりも「安定しているところ」を求める傾向が強まっている。

● 就職への不安

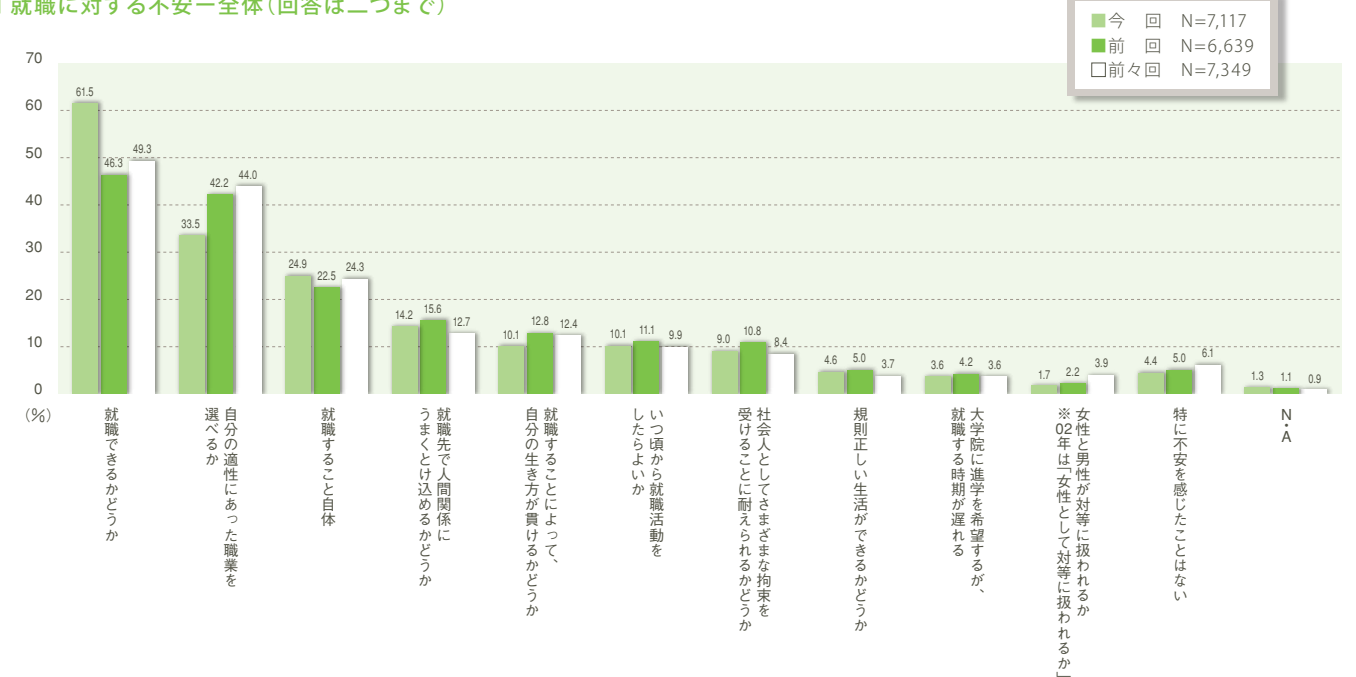
トップ3に前回と順位の変動はなかったが、1位の「就職できるかどうか」が前回より15.2ポイント増加している。一方、2位の「自分の適性にあった職業を選べるか」が前回より8.7ポイント減少している。

「就職できるかどうか」について性別に見てみると、男子(59.7%)よりも女子(63.5%)の方が高くなっている。また、この点について経済的余裕の有無別に比較すると、「自分の経済状況に余裕がある」と回答した学生のうち56.1%が、「自分の経済状況に余裕がない」では64.0%が不安を有しており、経済状況に余裕がない学生ほど、就職に対する不安を訴える割合が高くなっていた。

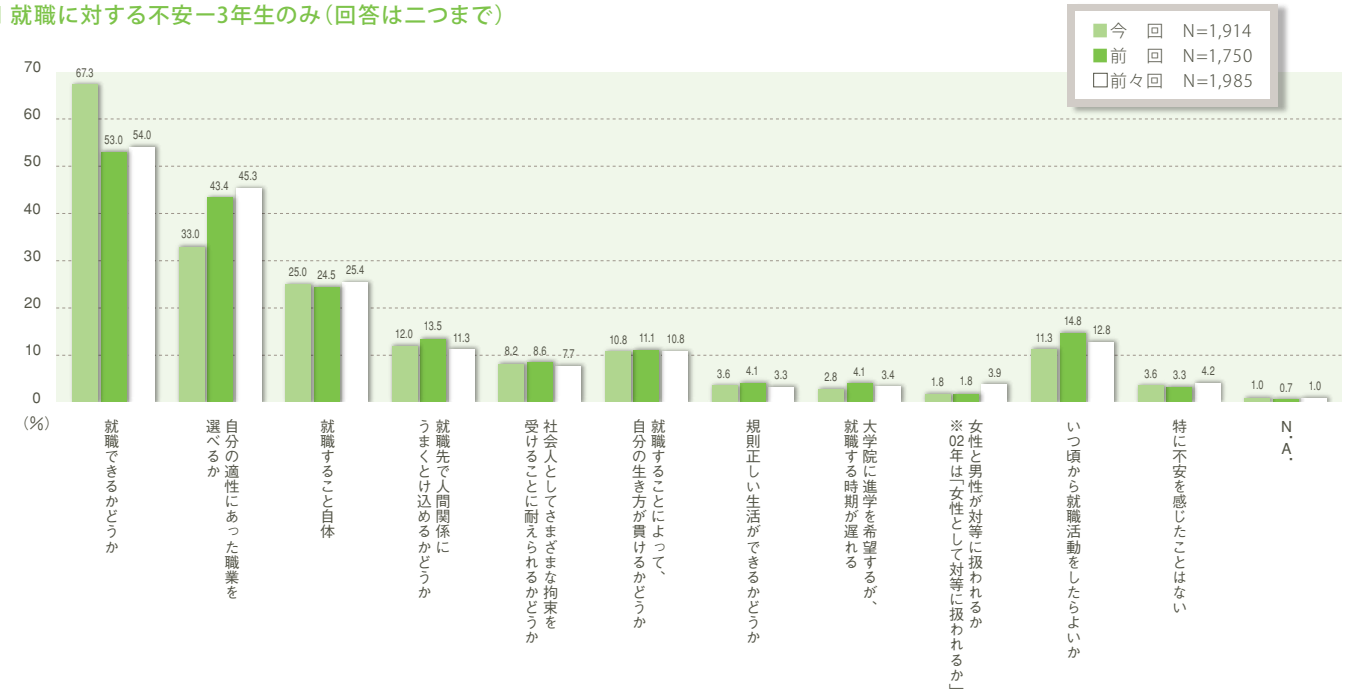
3位の「就職すること自体」は今回2.4ポイントの増加となり、引き続き高い数値を維持している。4位の「就職先で人間関係にとけ込めるか」については前回より1.4ポイント減少しているが、この点について学年別に見ると4年生で高い傾向(1年生12.4%→4年生21.6%)を示していた。

就職活動に最も関心があるであろう3年生を抽出して比較すると、1位の「就職できるかどうか」が増加、2位の「自分の適性にあった職業を選べるか」が減少という傾向は同じだが、「就職できるかどうか」は67.3%で全体(61.5%)よりも5.8ポイント高く、就職に対する不安が顕著であった。

■ 就職に対する不安—全体(回答は二つまで)



■ 就職に対する不安—3年生のみ(回答は二つまで)



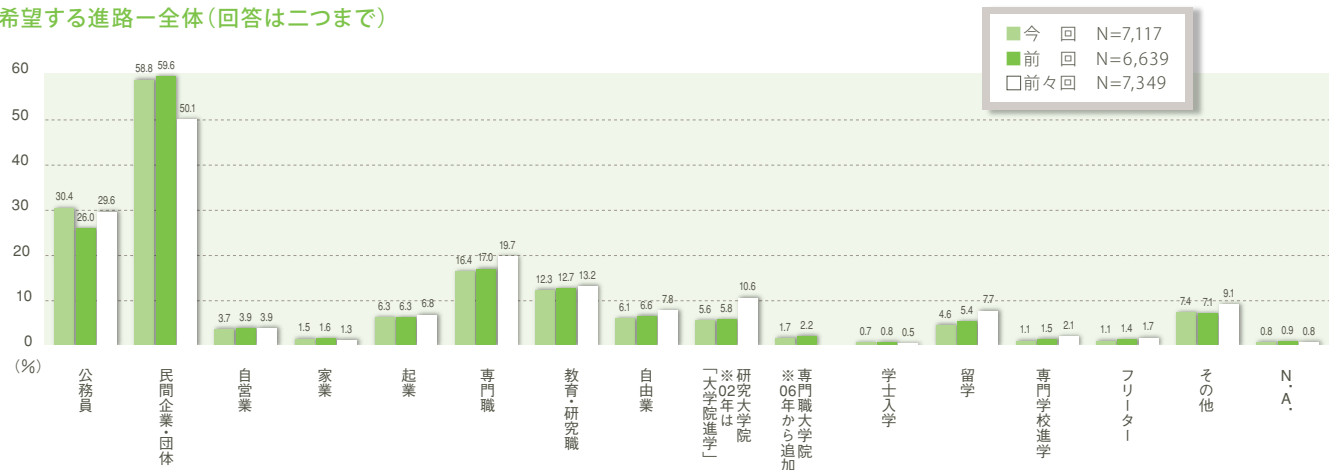
希望する進路

全体

全体の傾向としては、特に大きな変動があった項目はないが、「公務員」が前回より4.4ポイント増加し、30%を超えた。一方、微減ではあるが、「民間企業」、「専門職」、「教育・研究職」、「留学」などが減少した。

性別で比較すると、「公務員」が女子25.5%に対して男子34.9%となり、9.4ポイントの差があった。その他、「起業（ベンチャー）」についても、女子3.8%に対して男子8.6%となり、男子の方が希望する割合が高かった。

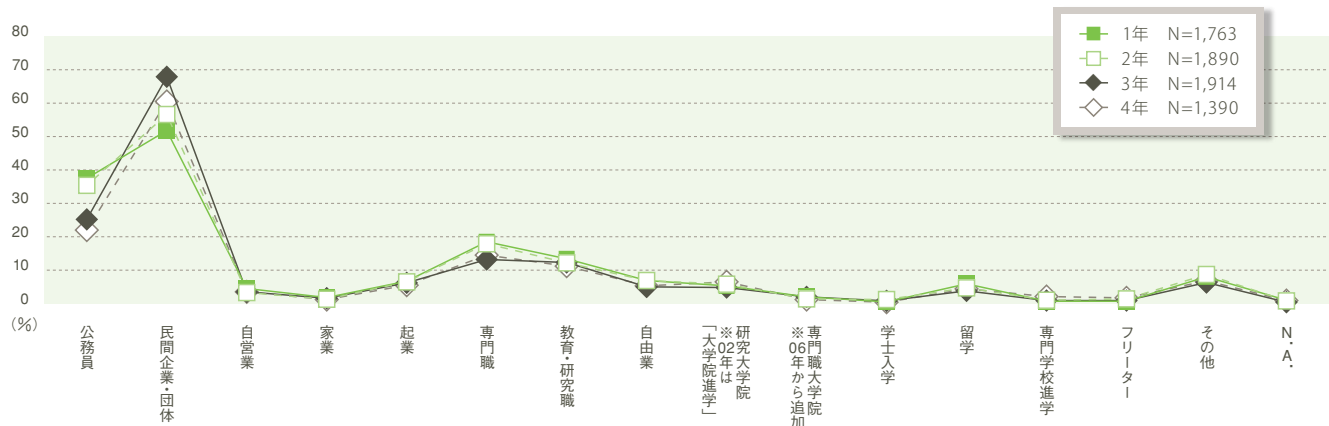
希望する進路－全体（回答は二つまで）



学年別

1年生は「公務員」を希望する割合が高く（37.5%）、「民間企業」の割合が低い（51.8%）が、学年が上がるにつれて公務員を希望する割合が減少し（3年生25.2%）、

民間企業を希望する割合が増加する（3年生67.9%）という結果であった。また、「専門職」、「教育・研究職」は学年が上がると共に減少する傾向にある。

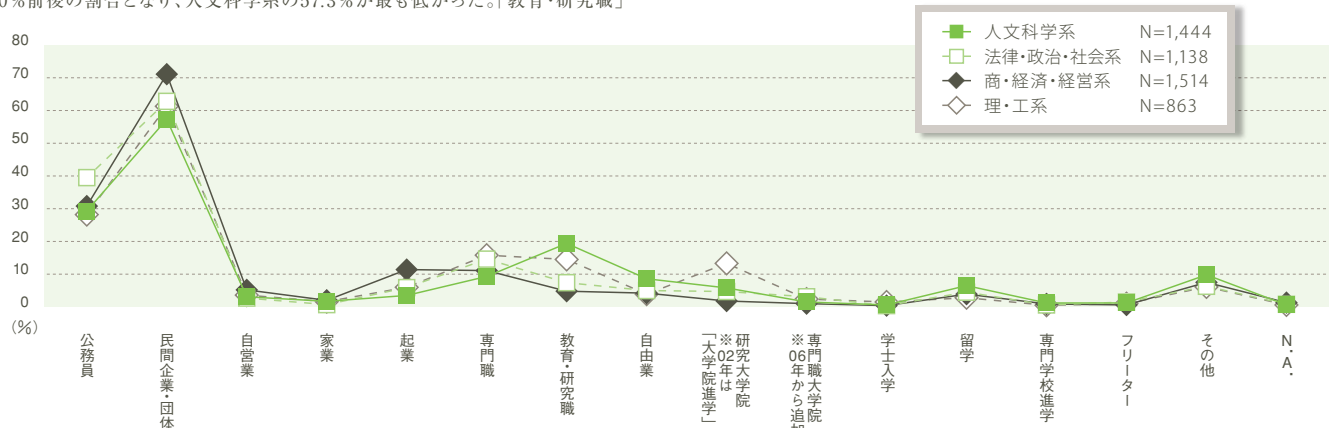


系統別

大きく差が出た項目を中心に、系統別で比較を行った。

「公務員」は法律・政治・社会系（39.5%）が他よりも突出して高く、一番低かった理・工系（28.2%）とは11.3ポイントの開きがあった。「民間企業・団体」は全ての系統で高い割合となったが、特に商・経済・経営系が71.1%と最も高く、その他は60%前後の割合となり、人文科学系の57.3%が最も低かった。「教育・研究職」

については人文科学系の19.4%が最も高く、次いで理・工系14.5%が続くが、一番低かったのは商・経済・経営系の4.8%で、トップの人文科学系とは14.6ポイントの差があった。また、「研究大学院」は理・工系が13.3%と最も高く、最も低い商・経済・経営系（1.8%）とは11.5ポイントの差があった。



どんな民間企業を志望するか

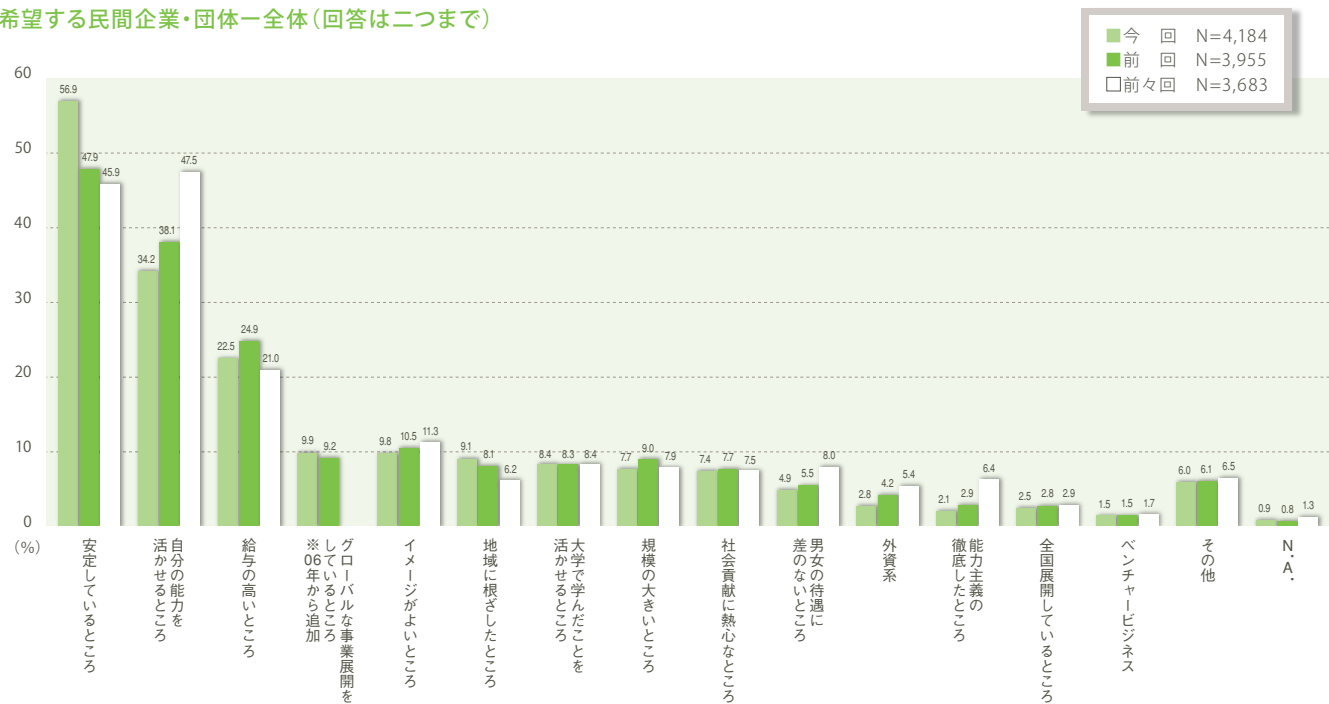
トップ3に順位の変動はなかったが、1位の「安定しているところ」は前々回から漸増傾向にあり、前回（47.9%）からは9.0ポイント増加している。

一方、2位の「自分の能力を活かせるところ」は、前回（38.1%）から3.9ポイント減少しており、前々回（47.5%）から比較すると13.3ポイント減少している。その他、「男女の待遇に差がないところ」、「外資系」、「能力主義の徹底したところ」は、

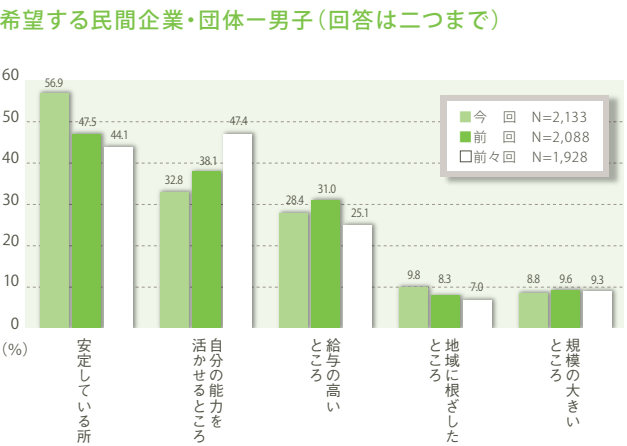
前々回から漸減傾向にある。

性別に見ると1位から3位までは、男女とも同じ順位だったが、4位と5位は、男子では「地域に根ざしたところ」、「規模の大きいところ」であり、女子では「グローバルな事業展開をしているところ」、「イメージがよいところ」であった。

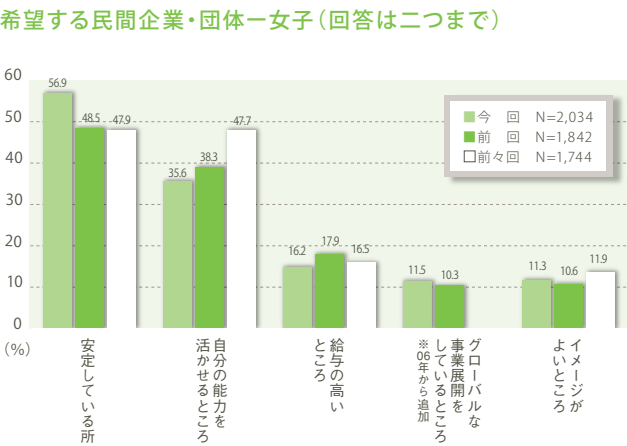
希望する民間企業・団体－全体（回答は二つまで）



希望する民間企業・団体－男子（回答は二つまで）



希望する民間企業・団体－女子（回答は二つまで）



comment

前回調査時（2006年）は、前々回調査時（2002年）の経済低迷期から、景気回復の兆しによって、民間企業志向の激増など、売り手市場の傾向へと急激に変化した。今回はリーマンショック後の経済不安や就職難などの社会情勢の影響により、再び安定志向へと向かう傾向となった。

就職先に対する自分の希望やマッチングもさることながら、それ以前にそもそも「就職できるか否か」という不安が大幅に増加しており、60%を超える学生が「就職できるかどうか」不安を有していた。この不安が、民間企業志望理由で「安定しているところ」が大幅に増加したことがあわすように、学生をより現実的な安定志向に向かわせていると言えよう。

不況による内定取り消しや就職活動の激化などが取り沙汰され、「就職」に関して暗い影が立ち込めている中で、学生は大きな不安に陥っている。その不安を少しでも取り除き、自分の適性や専門性などを考慮した積極的な進路選択が行えるように、正確、迅速な情報提供ときめ細かなサポート体制、環境作りが急務である。

Ⅷ. 身についたこと

Accomplishments

身についたこと

■ 多くの項目で身についたと思う学生が増加

「パソコンやインターネットを使いこなす力」、「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」は減少

「外国語の本を読んだり、外国語で話をする力」は25.9%と他の項目より身についたという実感が圧倒的に低い

● 外国語の本を読んだり、外国語で話をする力

力がついたと思う学生(前々回23.1%→前回24.1%→今回25.9%)

● パソコンやインターネットを使いこなす力

力がついたと思う学生(前々回65.2%→前回67.0%→今回62.9%)

● 視野を広げ、ものごとを幅広く考える力

力がついたと思う学生(前々回73.6%→前回76.3%→今回74.9%)

● 専門的知識をもとに論理的に考える力

力がついたと思う学生(前々回49.4%→前回55.6%→今回59.0%)

● 自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力

力がついたと思う学生(前々回42.3%→前回46.3%→今回50.0%)

● 相手の状況や考え方を考慮して話をしたり、対応する力

力がついたと思う学生(前々回63.1%→前回65.2%→今回66.8%)

● 計画を立て、目標に向かってリーダーシップをとる力

力がついたと思う学生(前々回36.9%→前回39.3%→今回42.5%)

● 趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力

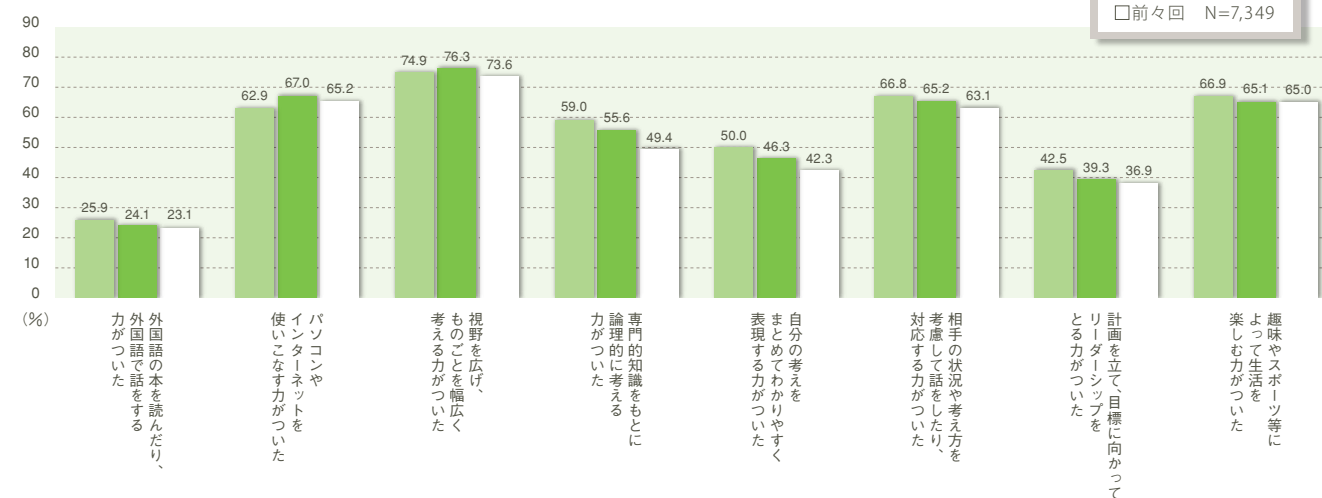
力がついたと思う学生(前々回65.0%→前回65.1%→今回66.9%)

● 身についたと実感できた力ー全体

「パソコンやインターネットを使いこなす力」、「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」以外については、前々回から増加傾向にある。特に「専門的知識をもとに論理的に考える力がついた」については、前々回より9.6ポイント増加している。

「外国語の本を読んだり、話す力」については、増加傾向にあるものの、25.9%と依然低い割合にとどまっている。

■ 身についたと実感できた力ー全体

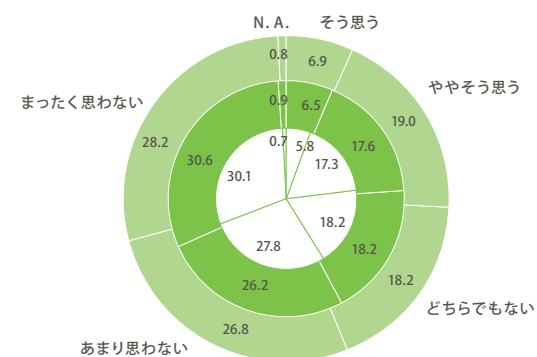


■ 今回 N=7,117 ■ 前回 N=6,639 □ 前々回 N=7,349

外国語の本を読んだり、外国語で話をする力

「力がついた(「そう思う」+「ややそう思う」)」と評価する割合は25.9%であった。前回(24.1%)より1.8ポイント増加したが、前回同様、全項目の中で最も低い数値となった。性別にみると、男子が23.0%に対し女子が28.9%となり、5.9ポイントの差があった。

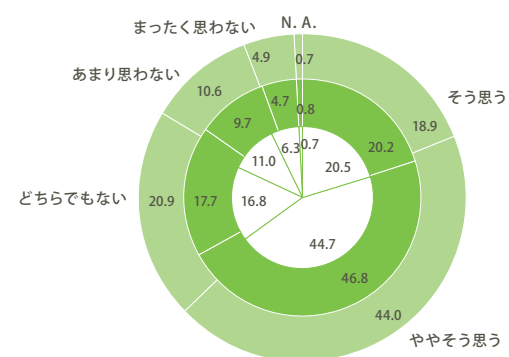
【外国語の本を読んだり、外国語で話をする力がついた】(%)



パソコンやインターネットを使いこなす力

「力がついた(「そう思う」+「ややそう思う」)」と評価する割合は前回より減少し、「どちらでもない」、「思わない」と評価する割合が増加した。学部系統別に見ると、「理・工系」において「力がついた」が71.6%と70%を超え、高い割合となった。

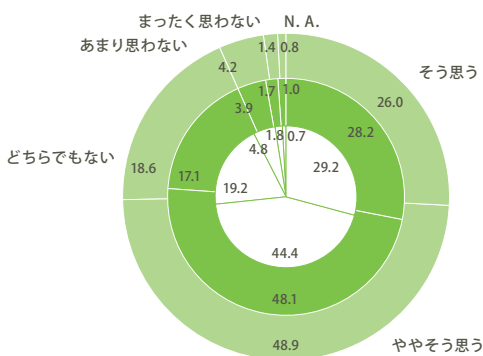
【パソコンやインターネットを使いこなす力がついた】(%)



視野を広げ、ものごとを幅広く考える力

前回同様、全項目の中で「力がついた(「そう思う」+「ややそう思う」)」として評価する割合が74.9%と最も高くなっている。前回と比較して、割合自体は1.4ポイント減少しているが、相変わらず高い数値となった。「学生生活は充実している」、「所属学部に入學してよかった」、「授業の内容に満足」、「自分のことを何でも話せる友人がいる」、「課外活動に参加している」とそれぞれ回答した学生で、「そう思う」と回答する割合が高くなっていた。

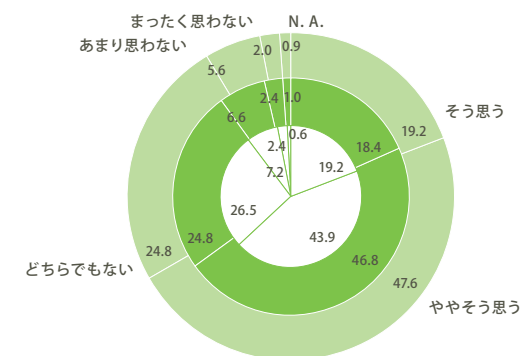
【視野を広げ、ものごとを幅広く考える力がついた】(%)



相手の状況や考え方を考慮して話をしたり、対応する力

前回と比較すると、「力がついた(「そう思う」+「ややそう思う」)」と評価した学生の割合は微増となった。「入学後ボランティア活動に参加した」学生のうち74.7%が「力がついた」と評価していた。

【相手の状況や考え方を考慮して話をしたり、対応する力がついた】(%)



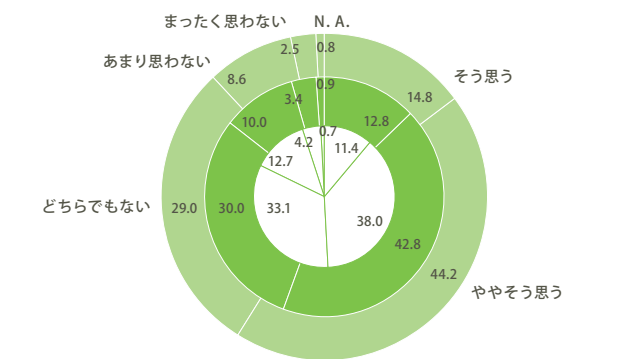
専門的知識をもとに論理的に考える力、
自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力

「論理的に考える力」について「力がついた（「そう思う」＋「ややそう思う」）」と評価する割合は、前回より3.4ポイント増加して59.0％となった。また、「自分の考えをまとめて表現する力」も3.7ポイント増加して50.0ポイントとなり、50％台に達した。

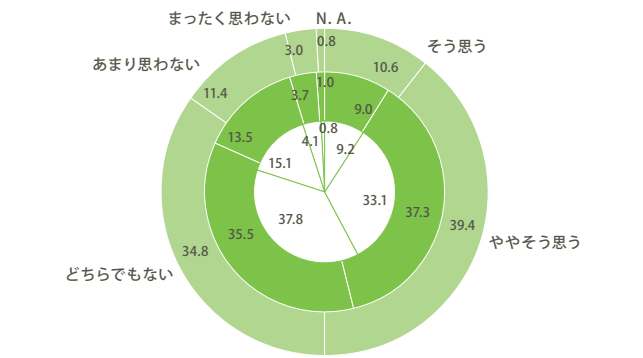
論理的に考える力について、所属学部満足度と学生生活充実度の観点で比較すると「所属学部に入學してよかった」と回答した学生の66.2％、「学生生活が充実している」学生の64.6％で「そう思う」と回答するなど満足度や充実度が高い学生ほど評価する傾向が見られた。

また自分の考えをまとめて表現する力については、ボランティア経験の有無、所属学部満足度、学生生活充実度の観点で比較すると「大学入学後にボランティア活動に参加した」学生の58.7％、「学生生活が充実している」学生の56.1％、「所属学部に入學してよかった」と回答した学生の55.3％が「そう思う」と回答するなど、ボランティア経験を有し、満足度や充実度が高い人ほど、それぞれ評価する傾向が見られた。

【専門的知識をもとに論理的に考える力がついた】（％）



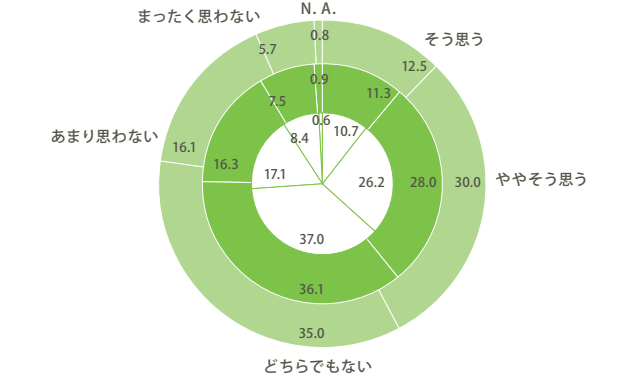
【自分の考えをまとめてわかりやすく表現力がついた】（％）



計画を立て、目標に向かってリーダーシップをとる力

「力がついた（「そう思う」＋「ややそう思う」）」と評価した学生は前々回から漸増傾向にあり、今回の調査では3.2ポイント増加し42.5％（前回39.3％）となり、40％を超えた。ボランティア経験の有無、学生生活充実度、課外活動への参加の有無の観点で比較すると「大学入学後にボランティア活動に参加した」学生の53.7％、「学生生活が充実している」学生の49.4％、「課外活動に参加している」学生の48.2％が「そう思う」と回答するなど、ボランティア経験を有し、学生生活満足度が高く、課外活動に参加した学生ほど、それぞれ評価する傾向が見られた。

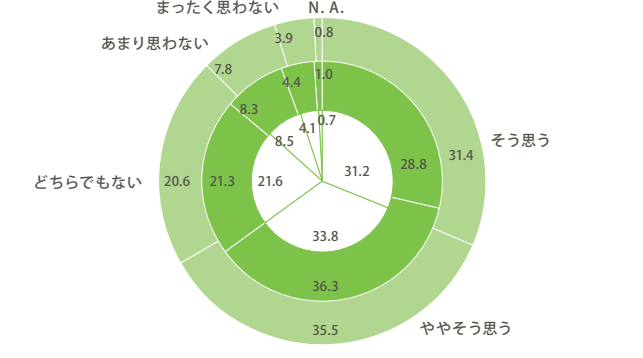
【計画を立て、目標に向かってリーダーシップをとる力がついた】（％）



趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力

「力がついた（「そう思う」＋「ややそう思う」）」と評価する割合は66.9％であり、前回より1.8ポイント増加した。課外活動への参加度、入学満足度、授業内容満足度の観点で比較すると、「課外活動に参加している」、「所属学部に入學して良かった」、「授業の内容に満足」と回答している学生で評価する割合が高い傾向にあった。特に「課外活動に参加している」学生の76.3％が「力がついた」と評価しているという結果であった。

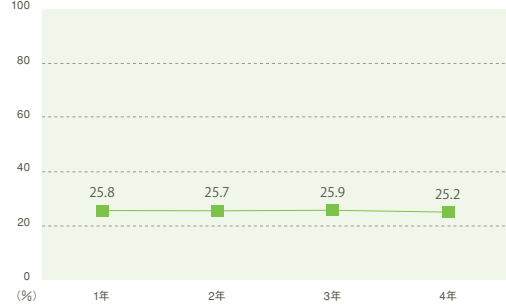
【趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力がついた】（％）



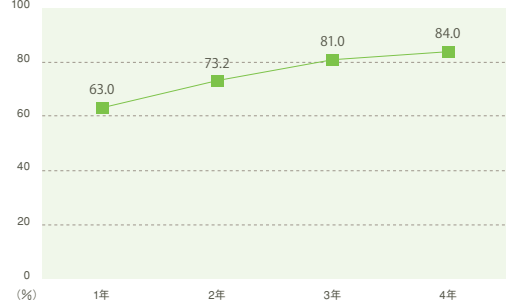
●身についた力の実感－学年別（そう思う＋ややそう思う）

1 年	N=1,763	3 年	N=1,914
2 年	N=1,890	4 年	N=1,390

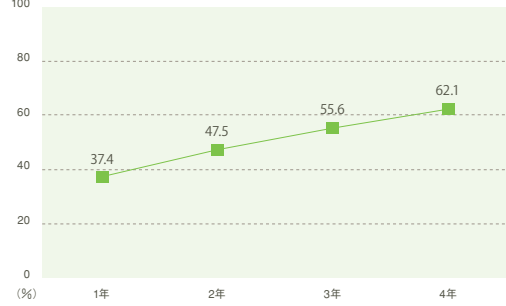
「外国語の本を読んだり、外国語で話をする力がついた」



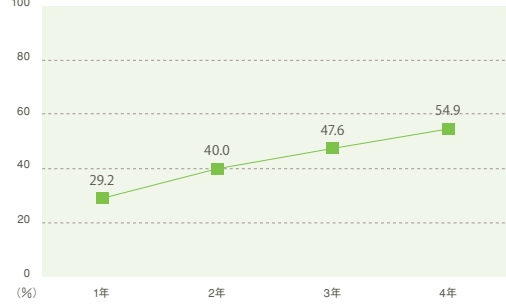
「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力がついた」



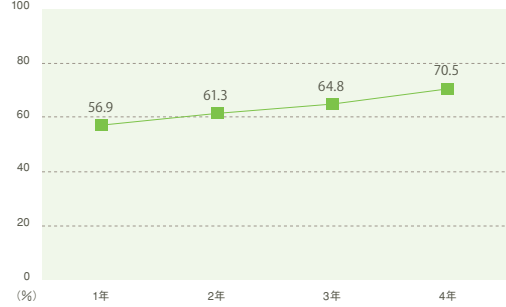
「自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力がついた」



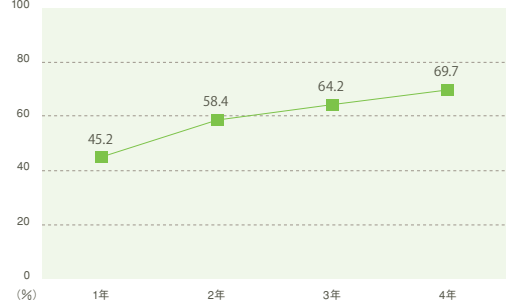
「計画を立て、目標に向かってリーダーシップをとる力がついた」



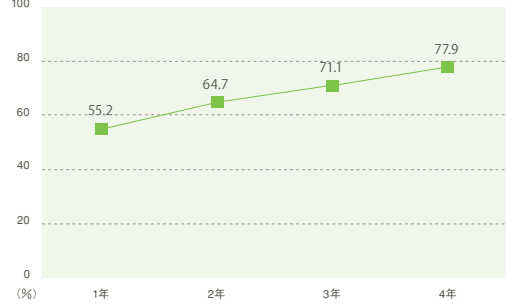
「パソコンやインターネットを使いこなす力がついた」



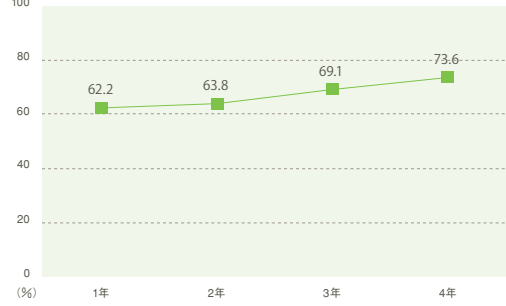
「専門的知識をもとに論理的に考える力がついた」



「相手の状況や考え方を考慮して話をしたり、対応する力がついた」



「趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力がついた」



comment

前回と同じく、「外国語能力」を除いて、各項目ともに学年が上がるごとに、「力がついた」と評価する割合が高くなっており、多くの能力が学生生活の中で順調に培われていることを示唆する結果であった。学年別に見ると4年生においては、「外国語能力」と「リーダーシップ力」は全体と比較して成長の実感が低いということが分かる。特に「外国語能力」に関しては、4年間を通して横ばいで、最も低い。これについては、早急に具体的な対策が必要であろう。

課外活動やボランティア活動、学生生活満足度等の観点で見ると、「課外活動やボランティア活動へ参加している」、「学生生活が充実している」、「所属学部に入學してよかった」、「授業の内容に満足」と回答している学生ほど、多くの項目で力がついたと評価する傾向が見られた。これは、積極的に正課・課外活動に参加し、充実した学生生活を送ることが、学生の更なる成長につながるということを示唆する結果とも言えよう。

学生委員会 委員名簿

役 名	氏 名	大学名および役職等名	
担当理事	永 井 和 之	中 央	総長・大学長
委 員 長	島 田 陽 一	早 稲 田	理事、法務研究科教授（～平成23年3月）
	國 廣 敏 文	立 命 館	常務理事（学生担当）、産業社会学部教授（平成23年4月～）
副委員長	中 村 信 博	福 岡	就職・進路支援センター長、商学部教授
委 員	清 水 克 洋	中 央	学生部長、商学部教授（～平成23年3月）
	鷲 谷 徹	中 央	学生部長、経済学部教授（平成23年4月～）
	真 銅 正 宏	同 志 社	学生支援センター所長、文学部教授
	増 田 祐 志	上 智	学生センター長、神学部准教授（～平成23年3月）
	谷 洋 之	上 智	学生センター長、外国語学部教授（平成23年4月～）
	笹 倉 淳 史	関 西	学生センター所長、商学部教授（平成23年4月～）
	吉 原 健 二	関 西	キャリアセンター事務局長
	中 西 康 裕	関西学院	学生部長、文学部教授
	伊 東 裕 司	慶應義塾	学生総合センター長、文学部教授
	杉 林 宏 茂	明 治	就職キャリア支援部就職キャリア支援事務長
	花 田 安 弘	明治学院	学生部長、心理学部教授（～平成23年3月）
	阪 本 俊 生	南 山	キャリアサポート委員会委員長、経済学部教授（～平成23年3月）
	佐 藤 勤	南 山	法学部教授（平成23年4月～）
	唐 澤 正 実	日 本	学生支援部長、経済学部教授
	舩 谷 鋭	立 教	学生部長、観光学部教授
	國 廣 敏 文	立 命 館	常務理事（学生担当）、産業社会学部教授（～平成23年3月）
	松 尾 哲 矢	立 教	コミュニティ福祉学部長（平成23年4月～）
	笹 倉 和 幸	早 稲 田	学生部長・キャリアセンター長、政治経済学術院教授（平成23年4月～）

学生委員会 学生生活実態調査分科会 委員名簿

役 名	氏 名	大学名および役職等名	
分科会長	松 尾 哲 矢	立 教	コミュニティ福祉学部長
委 員	花 田 安 弘	明治学院	学生部長、心理学部教授（～平成23年3月）
	小 川 文 昭	明治学院	学生部長、経済学部教授（平成23年4月～）
	唐 澤 正 実	日 本	学生支援部長、経済学部教授

社団法人日本私立大学連盟加盟大学一覧 （平成23年9月現在 123大学 大学名ABC順）

愛知大学	関西大学	武蔵大学	専修大学
亜細亜大学	関西医科大学	武蔵野大学	芝浦工業大学
青山学院大学	関西学院大学	武蔵野美術大学	白百合女子大学
跡見学園女子大学	関東学園大学	名古屋学院大学	創価大学
梅花女子大学	関東学院大学	南山大学	園田学園女子大学
文教大学	活水女子大学	日本大学	大正大学
中京大学	慶應義塾大学	日本女子大学	拓殖大学
中央大学	恵泉女学園大学	ノートルダム清心女子大学	天理大学
獨協大学	敬和学園大学	大阪学院大学	東邦大学
獨協医科大学	神戸女学院大学	大阪医科大学	東北学院大学
同志社大学	神戸海星女子学院大学	大阪女学院大学	東北公益文科大学
同志社女子大学	皇学館大学	大谷大学	東海大学
フェリス女学院大学	國學院大学	追手門学院大学	常磐大学
福岡大学	国際大学※1)	立教大学	東京医科大学
福岡女学院大学	国際武道大学	立正大学	東京医療保健大学
福岡女学院看護大学	国際基督教大学	立命館大学	東京情報大学
学習院大学	駒澤大学	立命館アジア太平洋大学	東京女子大学
学習院女子大学	甲南大学	龍谷大学	東京女子医科大学
白鷗大学	高野山大学※2)	流通科学大学	東京経済大学
姫路獨協大学	久留米大学	流通経済大学	東京農業大学
広島女学院大学	共立女子大学	聖母大学※3)	東京歯科大学
広島修道大学	京都産業大学	西武文理大学	苫小牧駒澤大学
法政大学	京都精華大学	聖学院大学	東洋大学
兵庫医科大学	京都橘大学	成城大学	東洋英和女学院大学
兵庫医療大学	松山大学	聖カトリナ大学	東洋学園大学
石巻専修大学	松山東雲女子大学	成蹊大学	豊田工業大学
実践女子大学	明治大学	西南学院大学	津田塾大学
上智大学	明治学院大学	清泉女子大学	早稲田大学
城西大学	三重中京大学	聖心女子大学	山梨英和大学
城西国際大学	宮城学院女子大学	聖トマス大学	四日市大学
順天堂大学	桃山学院大学	仙台白百合女子大学	四日市看護医療大学

※1 学部を設置していないため非調査対象 ※2 調査回答後、平成23年6月に退会 ※3 調査実施後、法人合併により平成23年4月より加盟